【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1211A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
①平常展
（4館共通）
1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（東京国立博物館）
1)「日本美術の流れ」を中心とする本館の日本美術、平成館の日本考古、東洋館の東洋美術、黒田記念館の近代洋画など、各種展示の更なる充実を図る。
2)特集
テーマ性を持った展示を各種実施し、調査研究成果を公開するとともに、平常展の更なる充実を図る。
・上野動物園・国立科学博物館との連携企画「親と子のギャラリー サルのひろば」（4月17日～5月20日）
・「平成29年度新収品展」（6月19日～7月29日）
・「親と子のギャラリー　なりきり日本美術館(仮)」（7月24日～9月9日）
・「江戸の仏像から明治の彫刻」（7月10日～9月30日）
・「岡田繁蔵旧蔵　陶磁コレクション」（9月4日～12月25日）
・正月恒例の「博物館に初もうで」（31年1月2日～1月27日）
・「ラファエル・コランと黒田清輝」（31年1月22日～4月14日）
・「東京国立博物館コレクションの保存と修理」（31年3月12日～4月7日）等
3)文化庁関係企画
「平成30年　新指定　国宝・重要文化財」（4月17日～5月6日）にて、30年新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　救仁郷秀明

【実績・成果】
（4館共通）
1)平常展来館者数は989,503人と目標値を上回り、展示替件数は5,981件と目標値をわずかに下回った。
（東京国立博物館）
1)定期的な展示替を実施し、5,981件の展示替を行った。展示総件数は9,139件である。
2)24件の特集を実施した。
3)「平成30年　新指定　国宝・重要文化財」を実施し、また、新指定の重要文化財となった彫刻の一部を、本館11室においても展示した。

【補足事項】
本館の展示室に、展示の趣旨や文化的背景を補足説明するコーナー解説を約60箇所増設した。

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
平常展の来館者数	989,508人	512,186人	A		587,528	747,944	761,709	1,030,180
平常展の展示替件数	5,981件	6,009件	C		5,506	6,930	8,538	6,616
平常展の展示総件数	9,253件	－	－		8,161	8,911	10,918	10,223

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
特別展に関わる展示や、明治150年記念の特集、世界文化遺産登録記念の特集など時宜を得た特集、新規寄託を契機とする特集、また毎年恒例の「博物館でアジアの旅」や「博物館に初もうで」など、充実した展覧事業を行った。その結果、リピーターや新規来館者の獲得につながり、目標値を上回る来館者があった。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
最新の研究成果に基づいた展示を行い、また本館の展示解説については、展示趣旨や文化的・歴史的背景に関わる説明を展示室に新たに60箇所追加するなど、来館者の増加に向けて努力している。今後は本館以外の展示室についても見直しを行い、展示解説の充実を図っていきたい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1211B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
（４館共通）
1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（京都国立博物館）
1)明治古都館改修に伴い、平常展示館として計画された平成知新館において特別展も開催するための平常展展示計画を策定し、平常展を行う。
2)平成知新館において、部門を超えた特別企画、特集展示を行う。
特別企画
・日中平和友好条約締結 40 周年記念「中国近代絵画の巨匠　斉白石」（31 年 1 月 30 日～3 月 17 日）（予定）
特集展示
・「新収品展」（6 月 12 日～7 月 16 日）
・「謎解き美術！最初の一歩」（7 月 21 日～9 月 2 日）
・「百萬遍知恩寺の名宝」（8 月 7 日～9 月 9 日）
・「亥づくし―干支を愛でる―」（12 月 18 日～31 年 1 月 27 日）
・「京の冬景色」（12 月 18 日～31 年 1 月 27 日）
・「美麗を極める中国陶磁」（12 月 18 日～31 年 2 月 3 日）
・「初公開！天皇の即位図」（31 年 1 月 30 日～3 月 10 日）
・「雛まつりと人形」（31年2月13日～3月17日）

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　山川曉

【実績・成果】
（４館共通）
1)平常展来館者数については146,314人と目標値を上回った。展示替件数は1,021件であり目標値を上回った。
（京都国立博物館）
1)特別展覧会前後の準備・撤収のため、名品ギャラリー閉室期間を設けるための展示計画を策定した。
2)年度計画に基づき、1件の特別企画、8件の特集展示を実施した。

【補足事項】
（京都国立博物館）
・旧平常展示館建替等の理由で22年以降途絶えていた「新収品展」を再開した。7年に渡り収集した多くの文化財が展示室6室分を埋め尽くした。
・「百萬遍知恩寺の名宝」は、当館が行った悉皆調査の成果を基にしたもので、分野を超えた構成で同寺が所蔵する文化財を紹介した。
・「美麗を極める中国陶磁」では、個人蒐集家から24年に寄贈を受けた中国陶磁や青銅器などの優品計74件を展示した。
・「中国近代絵画の巨匠　斉白石」においては、日中平和友好条約の締結から40周年を記念して中国・北京画院が所蔵する斉白石の名品を展示するとともに、隣接する展示室で当館が収蔵する関連作品を展示し、理解を深める工夫をした。
・名品ギャラリーにおいても「夏のきもの 単衣と帷子」（7月19日～9月2日）や「神々の伝説－北野・厳島－」（12月18日～31年1月27日）など、季節を意識した展示を実施した。

「新収品展」展示風景

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
平常展の来館者数	146,314人	141,041人	B		265,719	205,526	186,162	136,862
平常展の展示替件数	1,021件	919件	B		693	1,145	943	973
平常展の展示総件数	1,038件	－	－		980	1,438	1,068	978

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
29年度の来館者水準を維持し、目標値を上回った。来館者が減少しがちな冬期の特集展示に工夫を凝らすとともに、無料開館日を設けて来館者から好評を得たことが大きい。
展示替件数の目標達成に寄与した「新収品展」や「美麗を極める中国陶磁」では、複数年にわたって蓄積した調査研究の結果を一挙に発表する絶好の機会となった。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画に則り、30年度は「美麗を極める中国陶磁」、「中国近代絵画の巨匠　斉白石」の特別企画等と「中国の仏像」、「中国と日本の銅鏡」のテーマを設けた平常展を同時開催した。とりわけ中国の伝統文化の理解促進に大きく貢献した。
また、多言語解説を付した「初公開！天皇の即位図」、「雛まつりと人形」は、日本の文化を分かりやすく諸外国からの来館者に伝えることに繋がった。
中期計画4年目も引続き平常展来館者数を達成することや、平常展の活性化に取り組んでいきたい。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1211C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
（４館共通）
1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（奈良国立博物館）
1)下記のとおり各展示施設において、最新の研究成果を取り入れた名品展（平常展）を実施する。また、収蔵品の中からテーマを選んで特集展示を適宜実施する。
・西新館　絵画、書跡、工芸、考古　　・なら仏像館　彫刻　　・青銅器館　中国古代青銅器
2)分野の枠を超えた特別陳列を実施する。
独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実
・「お水取り」（31年2月8日～3月14日）等

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
（４館共通）
1)
・来館者数は、目標値を達成した。
・展示替件数は、目標値（前中期計画期間の平均値）の 73.9%であった。
（奈良国立博物館）
1)下記のとおり名品展を実施し、また特集展示を１件開催した。
・名 品 展「珠玉の仏教美術」　会場：西新館　開催期間：12月11日（火）～31年3月14日（木）
・名 品 展「珠玉の仏たち」　会場：なら仏像館　開催期間：4月1日（日）～31年3月31日（日）
・名 品 展「中国古代青銅器」　会場：青銅器館　開催期間：4月1日（日）～31年3月31日（日）
・特集展示「新たに修理された文化財」　会場：西新館　開催期間：12月26日（水）～31年1月20日（日）
2)下記の通り特別陳列を開催した。
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術 ―特集 大宿所―」
会場：東新館　開催期間：12月11日（火）～31年1月20日（日）
・特別陳列「お水取り」　会場：東新館　開催期間：31 年 2 月 8 日（木）～3 月 14 日（木）
・特別陳列「覚盛上人 770 年御忌　鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興」　会場：西新館　開催期間：同上

【補足事項】
・名品展の展示替件数は、前中期計画期間の平均値には達していないが、特別展の会期が全般的に長くなり、名品展「珠玉の仏教美術」の開催日数が限られている現状に鑑みれば、妥当な件数である。

名品展「珠玉の仏教美術」（西新館）
会場風景

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
平常展の来館者数	140,829人	118,173人	B		92,147	95,208	145,676	135,776
平常展の展示替件数	232件	314件	D		208	286	427	210
平常展の展示総件数	462件	－	－		675	620	664	548

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
来館者数は前中期計画期間の平均値を上回り（119%）、目標を達成した。展示替件数は前中期計画期間の平均値に達してしないが、上記のとおり名品展の開催期間・面積が限られる傾向にあるなか、29年度よりも件数自体は増えている。各展示館での名品展は計画どおりに実施できており、今後も引き続き、展示内容を充実させ、来館者の満足度向上に努める。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
30年度も、特別展や特別陳列との展示会場の棲み分けをしながら、着実に名品展を開催することができた。さらに、展示解説を充実させる一環として、西新館での名品展「珠玉の仏教美術」におけるコーナー解説パネルに、中国語（簡体）と韓国語を追加し、4言語表記とした。今後も利用者の意見を収集しつつ、名品展会場における解説文の充実と多言語化に努める。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1211D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
（４館共通）
1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。
（九州国立博物館）
1)特別展示によって、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマで研究成果を公開する。
・「災害に学ぶ・備える～熊本地震と文化財レスキュー～」（3 月 13 日～5 月 6 日）
・「茶の湯を楽しむⅧ　博多文琳と黒田家の茶道具」（4 月 10 日～6 月 3 日）
・「京都・仁和寺観音堂の千手観音像とその仲間たち」（開催日未定）
・「国宝　銅鐸絵画」（7 月 10 日～9 月 2 日）
・「全国高等学校考古名品展 2018」（7 月 21 日～9 月 9 日）
・「大宰府研究調査50周年記念　大宰府研究の歩み」（9月12日～12月23日）
・「坂本五郎コレクション受贈記念　北斎と鍋島、そして(仮)」（9月12日～10月21日）
・「平戸松浦家伝来の伊能図」（10月30日～12月23日）
・「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」（31年1月1日～1月27日）
・「玉 - 古代を彩る至宝 -（仮)」（31年1月1日～2月24日）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長　白井克也

【実績・成果】
（４館共通）
1)前中期目標期間の実績の年度平均以上を目指して、平常展は展示替えを1,779件行い、来館者数は349,114人であった。
（九州国立博物館）
計画に従って特集展示・特別公開を実施し、研究成果を公開するとともに、図録の刊行、シンポジウムの実施等により、成果の普及を図った。

【補足事項】
・「京都・仁和寺観音堂の千手観音像とその仲間たち」では、観音像等の配置だけでなく須弥壇正面壁画を撮影したパネルを設置するなど、仁和寺の観音堂を再現した展示を行った。また、撮影可能としたことも含め、観覧者アンケートで大変好評であった。
・「平戸松浦家伝来の伊能図」では、九州を描いた「伊能図」を展示し、松浦家に伊能図が伝来した背景について、また、平戸藩主と忠敬との交流の様相についての研究成果を公開した。
・実施を予定していた「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」は、所蔵者からの作品借用の条件となっていたＣＴ調査が、機器の更新のために実施できなかったため、借用と特集展示を取りやめた。

坂本五郎コレクションの図録表紙

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
平常展の来館者数	349,114人	387,744人	C		357,362	412,621	393,590	350,848
平常展の展示替件数	1,779件	1,253件	A		1,027	1,513	1,654	1,594
平常展の展示総件数	1,995件	－	－		1,904	2,628	2,208	1,894

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
多彩な特集展示と定期的な展示替えを、ほぼ目標どおり実施できた。ただし、平常展の来館者数については、30年度の特別展開催日数が少なかったこともあり、目標には達しなかった。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
中期計画の通り、最新の研究成果を基に、特集展示等を実施した。アジア的な視点から日本文化の形成を捉えるというコンセプトから、基本展示の充実と多彩な特集展示の実施に努めている。31年度以降もこれらの努力を継続するとともに、より読みやすく、わかりやすい多言語解説などにも取り組んでいきたい。

【博物館】　施設名 ４館　処理番号 1212ABCD

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　①平常展

【年度計画】
（４館共通）2)満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。

担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	課長　救仁郷秀明 企画室長　山川曉 課長　臣守常勝 課長　白井克也

【実績・成果】
（東京国立博物館）
・総合文化展のアンケートを実施し、集計結果を基に観覧環境改善に努めた。また、記述式要望書やウェブサイトの意見欄によって、当館への質問や意見を収集し、外部委託業者を含めて館内全体で共有、改善に努めるとともに、回答が必要なものについては担当部署に確認し、回答を行った。
（京都国立博物館）
・日本語・英語に加えて、29年度に導入した中国語・韓国語のアンケート内容を適切に把握する体制を構築した。
・多言語にてホームページで発信する内容を充実させた。
（奈良国立博物館）
・館内に常設のアンケート記入場所を設け、記述式アンケートを通年で実施した。アンケートの結果は集約のうえ、関係部署で共有し、改善に努めた。また、ウェブサイトを通じた当館への意見等も同じく改善に向けて共有した。
（九州国立博物館）
・研究成果に基づく特集展示や、様々な広報･教育普及の取り組みにより、平常展（文化交流展）に目標値を超える高い満足度を得た。

【補足事項】
（東京国立博物館）
・アンケート回収率向上のため、定期的にお客様へアンケートご協力のお声がけ、アンケート設置場所を工夫するなどし、結果29年度以上の回収率、回数数を達成することができた。
（京都国立博物館）
・複数の展示室を用いて実施する特集展示では、展示室パネルへのフロアマップを併記し、わかりやすい導線とした。
（奈良国立博物館）
・中国人来館者からの要望に応え、新たな電子マネー（Alipay、WeChatPay）の利用を可能とした。

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
平常展の来館者アンケート満足度								
東京国立博物館	89.2%	74%	A		77	82	71.0	87.3
京都国立博物館	89.7%	79%	B		74	83	75.0	84.4
奈良国立博物館	92.5%	79%	B		81	78	88.9	90.1
九州国立博物館	73.6%	67%	B		62	72	73.8	77.8

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 総合文化展のアンケートについては目標を上回る満足度を達成することができた。また、指摘事項や回答内容をもとに展示内容や解説の改善を行うことでアンケートの結果を活用することができた。引き続き、アンケートやウェブサイトを通じて寄せられる来館者の意見を参考にしつつ満足度の向上を目指す。また、今後はさらに回収率を上げるための方策も引き続き検討していきたい。

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 29年度に引き続き、来館者アンケート満足度は前中期目標の期間の実績以上を達成することができた。31年度以降も来館者から寄せられる意見等を通じて、引き続き満足度の向上に向けて取り組んでいく。併せて、各館共通のアンケート項目に対する回答を参考に、展示内容等の改善について4博物館が活用できるよう努めていく。

【書式Ａ】　施設名　４館　処理番号　1220ｱABCD

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（４館共通）
ア　中期計画で定めた開催回数の達成を目指す。

担当部課	東京国立博物館学芸企画部 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部	事業責任者	部長　富田淳 企画室長　伊藤信二 部長　内藤栄 部長　小泉惠英

【実績・成果】
（東京国立博物館）特別展を9回開催した。内訳：当館開催7回、海外展2回
（京都国立博物館）特別展を2回実施した。
（奈良国立博物館）特別展を3回開催した。
（九州国立博物館）特別展を4回実施した。

【補足事項】
（東京国立博物館）
　開催した特別展は以下のとおり。
アラビアの道－サウジアラビア王国の至宝、創刊記念『國華』130周年・朝日新聞140周年　特別展「名作誕生―つながる日本美術」、特別展「縄文―1万年の美の鼓動」、特別展「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」、東京国立博物館・フィラデルフィア美術館交流企画　　特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」、日中平和友好条約締結40周年記念特別企画「中国近代絵画の巨匠　斉白石」、特別展「顔真卿　王羲之を超えた名筆」、「江戸絵画名品展」（プーシキン美術館）、海外展　ジャポニスム2018「縄文―日本における美の誕生」（パリ日本文化会館）
（京都国立博物館）
　開催した特別展は以下のとおり。
　特別展「池大雅　天衣無縫の旅の画家」、特別展「京のかたな　匠のわざと雅のこころ」
　約2か月にわたり重要文化財である明治古都館を活用した特別展の関連展示を行った。
（奈良国立博物館）
　開催した特別展は以下のとおり。
創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」、修理完成記念特別展「糸のみほとけ―国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏―」、「第70回 正倉院展」
（九州国立博物館）
　開催した特別展は以下のとおり。
特別展「王羲之と日本の書」、特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」、明治150年記念　特別展「オークラコレクション」、特別展「京都・醍醐寺－真言密教の宇宙－」

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
特別展の開催回数（海外展含む）								
東京国立博物館	9回	年3～4回	A		8	6	13	7
京都国立博物館	2回	年1～2回	B		3	2	3	2
奈良国立博物館	3回	年2～3回	B		3	3	4	3
九州国立博物館	4回	年2～3回	A		5	5	4	5

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4館とも目標値を上回る回数の特別展を実施した。また、時期に適った企画や地域文化に深く関わる展示内容を展開する等、質的にも我が国の中核拠点にふさわしい事業を展開することができた。併せて、ロシアおよびフランスで海外展を開催することで、日本美術を広く国外へ紹介することができた。

【中期計画記載事項】
　特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。
（東京国立博物館）年 3～4 回程度（京都国立博物館）年 1～2 回程度
（奈良国立博物館）年 2～3 回程度（九州国立博物館）年 2～3 回程度

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 国内外の博物館と連携した質の高い特別展を開催し、順調に中期計画を進めることができた。31年度以降も、国民に話題を提供する契機となる企画を行い、展覧会の質の高さを保ちながら目標を上回る特別展を開催する。

※東京国立博物館で開催の「アラビアの道－サウジアラビア王国の至宝」は、会期が 1 月 23 日～5 月 13 日のため 30 年度の実績とする。
※九州国立博物館で開催の特別展「王羲之と日本の書」は、会期が 2 月 10 日～4 月 8 日のため 30 年度の実績とする。
※東京国立博物館で開催の特別展「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」は、会期が 31 年 3 月 26 日～6 月 2 日のため 31 年度の実績とする。

【書式A】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　1220イA

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（4館共通）
イ　満足度調査等を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部企画課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　浅見龍介

【実績・成果】
（4館共通）
イ
　各特別展において、タッチパネルアンケートまたは記述式アンケートを実施し、来館者のご意見を把握し、共催者や外部委託業者を含めて、関係者全体で共有するなど、来館者のご意見・ご要望を次回の特別展に反映する取り組みを行っている。アンケート調査の結果は、当館のホームページにおいて公開すると共に、質問等を提出された来館者には可能な限り速やかに回答を行っている。

【補足事項】
　外国人来館者に対する解説を充実するため、外国語の音声ガイド（英語・中国語・韓国語）を29年度に引き続き作成し、特別展の満足度向上を図った。また、未就学児の来館が増えた特別展では、保護者向け、子供向けの注意事項を記載した用紙を配布し、混雑する特別展では、屋外での待ち時間が長くならないよう、館内休憩スペースに待機列を作るなど、来館者に寄り添った対応に努めた。

子供向けの注意事項

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定		26	27	28	29
特別展の来館者アンケート満足度	84.2%	71%	B	経年変化	67	75	87.9	86.4
アラビアの道－サウジアラビア王国の至宝	91.4%	－	－		－	－	－	－
名作誕生－つながる日本美術	84.4%	－	－		－	－	－	－
縄文－1万年の美の鼓動	88.2%	－	－		－	－	－	－
マルセル・デュシャンと日本美術	74.0%	－	－		－	－	－	－
京都 大報恩寺	86.3%	－	－		－	－	－	－
中国近代絵画の巨匠 斉白石	－	－	－		－	－	－	－
顔真卿	81.1%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 年間を通じて高い満足度を達成することができた。特に猛暑にもかかわらず30万人以上の入館者数であった「縄文－1万年の美の鼓動」では、満足度も高いものとなった。9年ぶりの自主展となった「マルセル・デュシャンと日本美術」については「デュシャンと日本美術の共通項があるという視点が斬新で新たな発見となった」など、展示に対する好意的な意見が多く見受けられた。今後も来館者により分かりやすい展示構成となるよう努める。

【中期計画記載事項】
　特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 30年度も目標値を超える満足度を得ることができた。引き続きアンケート結果を館内で共有し、観覧環境も含めより良い展覧会の実現に努める。

「中国近代絵画の巨匠 斉白石」は特別企画としたため、来館者アンケート満足度は総合文化展の満足度に含める。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1220イB

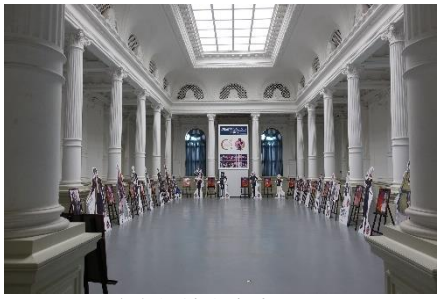
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（４館共通）
イ　満足度調査を実施するなど広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　數馬厚人 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（４館共通）
イ
・特別展毎に、監視スタッフ向けに留意事項、接遇の基本、業務内容等に関する説明会を行った。
・展示会場での滞留が予想された京のかたな展においては、展示構成、展示室レイアウト、音声ガイド作品などについて関係者にて十分に協議し、クレームを最小限に抑えながら、満足度を向上するよう努めた。
・特別展の公式ツイッターを設け、展覧会情報の拡散と生の声の即時収集を行った。
・池大雅展は、当館として初めて全ての作品に英語・中国語・韓国語で作品名等の表示を付した特別展となった。

【補足事項】
イ　京のかたな展で行った対策について
・絵巻等を最初の展示室に集約することで、導入部をわかりやすくするとともに、次の展示室から延びる観覧のための待ち列を吸収する空間を設けた。
・主要な刀剣においては、最前列で作品を鑑賞するための動線と行列に並ばずに後方から眺める動線を設け、満足度の向上に貢献した。
・環境保全上の理由によりウォータークーラー付近に限られていた水分摂取可能区域を、運用を工夫することで大幅に拡大し、ロビー等の休憩スペースでの摂取を可能とした。
・刀剣をモチーフにしたゲームキャラクターの等身大パネルの設置、関連グッズの販売及び復元模造刀剣の展示を明治古都館内で行った。文化財とその派生品を分けて展示することにより、不用意な干渉や混雑を回避し、双方の観覧環境を適切に維持した。


明治古都館中央室活用状況

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
特別展の来館者アンケート満足度	94.6%	89%	B		88	87	78.1	81.9
池大雅	90.2%	－	－		－	－	－	91.3
京のかたな	97.7%	－	－		－	－	－	78.3

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	29年度に顕在化した課題を検証し、展示及び会場構成に反映させることで満足度の向上に結び付けることができた。 特に京のかたな展は通常の展覧会と客層が異なったことから、常にアンケート結果に目を通し、来館者の目線に立った微調整を行うことで、混雑したにも関わらず高い満足度を達成することができた。また、客層を考慮して明治古都館で行ったパネル展示や関連グッズ販売も好評を博し、満足度を押し上げた。 これまでの経験を活かし、新たな取組も問題なく対応できたことは高い成果を上げたと言える。

【中期計画記載事項】
特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	29年度に引続き、会場内の混雑緩和や水分摂取可能区域の拡大など、よりよい観覧環境を実現すべく常に改善を図り、様々な工夫を行った。中期計画3年目として、31年度以降の特別展運営等に資する取り組みを充分に行うことができた。引続きアンケート結果の速やかな回覧等にて、満足度を向上させるための取組を行っていきたい。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1220イC

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（４館共通）
イ　満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　臣守常勝

【実績・成果】
（４館共通）
イ
・館内で実施する記述式アンケートや対面アンケートの集計結果、またウェブサイトを通じた当館へのご意見等を関係部署で共有し改善に努めた。
・特別展「糸のみほとけ」、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」及び「お水取り」「覚盛上人770年御忌　鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興」では、ボランティアによる対面アンケートを行い、回収率を上げて幅広く意見を聞くことができた。
・展覧会毎に監視要員に対して、接遇の基本、業務内容、要員配置、留意事項、期間中のイベント、販売券種及び割引対象等について説明会を行い、適切な来館者応対が可能となるように努めた。

【補足事項】
・来館者対応業務を委託する外部業者と常に情報共有や意見交換を図りながら、来館者対応の改善に努めた。
・正倉院展において従前よりトイレの不足が課題となっているため、館外に女性用の仮設トイレを設置した。

特別展「糸のみほとけ」
対面アンケートの様子

「第 70 回正倉院展」
女性用仮設トイレ

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定		26	27	28	29
特別展の来館者アンケート満足度	89.8%	80%	B	経年変化	79	79	86.4	88.1
国宝　春日大社のすべて	87.7%	－	－		－	－	－	94.4
糸のみほとけ　－国宝　綴織當麻曼荼羅と繍仏－	95.9%	－	－		－	－	－	92.0
第70回正倉院展	85.9%	－	－		－	－	－	78.0

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	ボランティアによる対面アンケートを複数回行い、来場者の声を直接聞くとともに回収率の増加に努めた。寄せられた意見については、内容を検討のうえ順次改善を図った。

【中期計画記載事項】
特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	30年度に開催した特別展における満足度は、29年度に引き続き前中期目標の期間の実績以上の数字となった。31年度以降も引き続きアンケートを実施し、来館者の意見を参考にしながら改善を図って満足度の向上に努める。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1220イD

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（４館共通）
イ　満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長　白井克也

【実績・成果】
（４館共通）
イ
　30年度実施した特別展「王羲之と日本の書」、「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」、「明治150年記念　オークラコレクション」、「京都・醍醐寺　真言密教の宇宙」について、来場者を対象に満足度調査を実施した。各特別展において、目標値に近い満足度を得ることができた。
・特別展「王羲之と日本の書」では、菅原道真と王羲之をキャラクター化し、「楽しみま書」と題した解説パネルを設置するなど、教育普及の要素を取り入れた展示が人気を博した。
・特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」では、目玉展示の一つであるルノワールの≪イレーヌ・カーン・ダンヴェール嬢（可愛いイレーヌ）≫や、モネの≪睡蓮の池、緑の反映≫を撮影可としたところ、大変好評であった。撮影された写真を掲載したSNSでの拡散により、来館者増にもつながった。
・特別展「明治150年記念　オークラコレクション」では、大倉集古館の幅広い主要作品を展示したこと、私財を投じて文化財を保護し、海外へ発信した大倉親子の業績について紹介したことが高い満足度につながった。
・特別展「京都・醍醐寺　真言密教の宇宙」では、国宝・薬師三尊像をかつての安置状況を再現した空間で展示したほか、彫刻や絵画など迫力の密教美術を数多く紹介したことが高い満足度となった。また、一般にはあまり馴染みのない「密教」について深く理解するための、イラストを中心とした分かりやすいパネルが好評を博した。

【補足事項】

特別展「京都・醍醐寺　真言密教の宇宙」
国宝・薬師三尊像の展示風景

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定		26	27	28	29
特別展の来館者アンケート満足度	86.7%	86%	B	経年変化	85	88	85.9	87.2
王羲之と日本の書	89.6%	－	－		－	－	－	－
ビュールレ・コレクション	84.8%	－	－		－	－	－	－
オークラコレクション	83.5%	－	－		－	－	－	－
京都・醍醐寺－真言密教の宇宙－	89.0%	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 各展覧会で目標値に近い満足度を得るとともに、「王羲之と日本の書」では目標を超えた90%近い満足度を達成した。

【中期計画記載事項】
　特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 特別展は高い満足度を維持している。今後も特別展来館者アンケートを継続実施して来館者の反応を把握するとともに、アンケート結果を分析して満足度の更なる向上に努めたい。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1221Aｱ

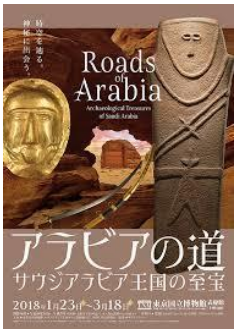
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　特別展「アラビアの道－サウジアラビア王国の至宝」（30年1月22日～3月18日）
　サウジアラビアが所属する旧石器時代から近代までの考古遺物と美術作品を展示する。（目標来館者数10万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課考古室長　白井克也

【実績】

展覧会名	アラビアの道－サウジアラビア王国の至宝
会　　期	30年1月23日（火）～5月13日（日）（99日間）
会　　場	表慶館
主　　催	東京国立博物館、サウジアラビア国家遺産観光庁、NHK、朝日新聞社
作品件数	424件
来館者数	250,100人（達成率250.1%）　※会期延長のためあくまで参考値
入場料金	無料
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　91.4%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	アラビア半島は、古代より交易路が張り巡らされ、人々と諸文明が行き交った。本展は、その躍動的な歴史と文化を示すサウジアラビア王国の至宝を日本で初めて公開する。100万年以上前にさかのぼるアジア最初の石器、5000年前に砂漠に立てられた人形石柱、ヘレニズム時代やローマ時代の出土品、イスラームの聖地メッカのカァバ神殿で17世紀に使われた扉、サウジアラビア初代国王の遺品（20世紀）など、アラビア半島の知られざる歴史を紹介した。
学術的意義	古代オリエント関連諸学の伝統において、アラビア半島の歴史と文化は、その重要性に見合うほどの注目を浴びてこなかったといえる。サウジアラビアの考古資料や伝来品を網羅的に紹介した本展覧会は、多くの研究者がアラビア半島の古代史に目を向ける契機となった。また、本展覧会のカタログでは、多くのデータ（年代、属性、サイズ、材質など）が更新され、厳密な色校正を経た写真が掲載されている。研究資料としての活用が期待される。
教育普及	表慶館前において、アラビア体験テントを設置した。テント内では、各実施日の先着1,000名に対してアラビックコーヒーとナツメヤシを無料配布し、参加者にアラビア遊牧民の伝統的生活を体験していただいた。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	報道内覧会：1月23日実施　92媒体、122人出席。ポスター、チラシ各種制作。駅大型ボード、東京メトロ電飾看板などを出稿。新聞：朝日新聞、雑誌：「Pen」1月号、「サライ」2月号　テレビ：ＮＨＫ「日曜美術館アートシーン」。インターネットメディア：インターネットミュージアム、東京アートビートなどで報道。
補　足	サウジアラビア政府の申し入れにより、3月18日までの会期を5月13日まで延長した。 会場風景１ 会場風景２

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定
来館者数	250,100人	100,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 本展は国際巡回であるが、直近に開催された中国国家博物館、韓国国立中央博物館の展示の調査を行ったため、理解しやすい作品解説の執筆や、安全で効率的な展示作業をすることができた。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1221Aイ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（東京国立博物館）
イ　創刊記念『國華』130周年・朝日新聞140周年　特別展「名作誕生―つながる日本美術」（4月13日～5月27日）
日本美術の名作誕生のドラマを紹介する。（目標来館者数12万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛

【実績】

展覧会名	創刊記念『國華』130周年・朝日新聞140周年　特別展「名作誕生―つながる日本美術」
会　　期	4月13日（金）～5月27日（日）　（40日間）
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、國華社、朝日新聞社、テレビ朝日、BS朝日
作品件数	130件
来館者数	173,995人（達成率：145.0%）
入場料金	一般1,600円、大学生1,200円、高校生900円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　84.4%

告知ポスター

【成果】

企画構成展示作品	日本美術史上に輝く「名作」たちは、さまざまなドラマをもって生まれ、受け継がれ、次の名作の誕生へとつながった。本展では、作品同士の影響関係や共通する美意識に着目し、地域や時代を超えたさまざまな名作誕生のドラマを、国宝・重要文化財含む約130件を通してご紹介した。
学術的意義	一つの作品が成立する背景の追及や紹介は、美術史にとって重要な作業で、写真によって比較検討ができる書籍ではしばしば行われるが、実作品で、しかも多くの作品について行うことは困難である。本展覧会では、一つの名作の成立を関連する実作品を使って紹介する画期的な企画である。
教育普及	・記念講演会を2回開催した。第1回は4月14日の講演「日本美術鑑賞への誘い」を行い、参加者数344人であった。第2回は4月21日の講演「つながる雪舟 つながる若冲」を行い、参加者数363人であった。 ・小・中・高等学校の教員を対象とした研修会を開催し、展示内容の解説と見学を行い、参加者数140人であった。 ・ボランティアを対象とした解説会を開催し、参加者数67人であった。
その他（運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	報道内覧会：4月12日実施　158媒体、219人出席。ポスター、チラシ各種制作。JR駅大型ボード、京王線駅貼り、東京メトロ車内ステッカーなどを出稿。新聞：朝日新聞　文化面特集、雑誌：「一個人」4月号、「サライ」4月号　テレビ：BS朝日「壇蜜の日本美訪～つながる名作誕生のドラマ～」、NHK「日曜美術館」アートシーン、BS日テレ「ぶらぶら美術博物館」などを報道。またSNS広告を実施。
補　足	会場風景１　 会場風景２

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定
来館者数	173,995人	120,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 古代から近代にいたる日本美術の中から、一つの名作が生まれる背景にいろいろな切り口から迫ることができた。伊藤若冲や長谷川等伯といった近年人気の高い作家についても取り上げたことによって多くの入場者があった。また、図録は第60回全国カタログ展（日本印刷産業連合会）にて、実行委員会奨励賞を受賞した。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1221Aｳ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（東京国立博物館）
ウ　特別展「縄文―1万年の美の鼓動」（7月3日～9月2日）
日本美術の源流ともいえる縄文時代の作品を紹介した。（目標来館者数10万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課考古室長　品川欣也

【実績】

展覧会名	特別展「縄文―1万年の美の鼓動」
会　　期	7月3日（火）～9月2日（日）　（55日間）
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
作品件数	207件
来館者数	354,259人（達成率：354.2%）
入場料金	一般1,600円、大学生1,200円、高校生900円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　88.2%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	縄文時代の人びとが狩猟や漁撈、採集などの日々の暮らしのなかで工夫を重ねて作り出したさまざまな道具には、力強さと神秘的な魅力にあふれている。本展では「縄文の美」をテーマに、約1万年間続いた縄文時代の日本列島の各地で育まれた優品を一堂に集め、その形に込められた人びとの技や思いに迫った。 縄文時代の国宝6件すべてが出品されるのは本展が初めての機会。これに重要文化財63件を加えた総数207件を出品。
学術的意義	縄文時代の出土品を考古資料としてではなく、造形美に着目して再評価を促したことに学術な意義がある。縄文時代の日本列島に広がる造形美の多彩さと豊かさを展示して紹介し、約1万年の間に移り変わる造形美の変遷、同時代の欧州やアジア各地の造形美との比較を行うことで、縄文時代の造形美を相対的に評価し位置づけた。
教育普及	・記念講演会「縄文の美を楽しむ」を7月28日に行い、参加者数264人であった。 ・トークイベント「縄文・日本美術・岡本太郎」を7月22日に行い、参加者数347人であった。 ・小・中・高等学校の教員を対象とした研修会を開催し、展示内容の解説と見学に260人の参加があった。 ・ジュニアガイドを編集し、50,000部を刊行した。 ・ボランティアを対象とした解説会を実施し、96人の参加者があった。 ・平成30年度戦略的芸術文化創造推進事業「高校生ニッポン文化大使」へ協力した。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	報道内覧会：7月2日実施　176媒体、254人出席。ポスター、チラシ各種制作。JR駅大型ボード、京王線駅貼り、東急線ドア横ポスターなどを出稿。新聞：朝日新聞　文化面特集、雑誌：「芸術新潮」7月号、「和楽」8～9月号　テレビ：BS日テレ「ぶらぶら美術館・博物館」、NHK「日曜美術館」、NHK「歴史秘話ヒストリア」、NHK「びじゅチューン　夏休みスペシャル」、フジテレビ「めざましテレビ」ほか多数報道あり。また、書店での縄文フェアを実施。
補　足	会場風景１ 会場風景２

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定
来館者数	354,259人	100,000人	S

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｓ	【判定根拠、課題と対応】 縄文時代の国宝全６件を含む、全国各地の縄文時代の重要作品を展示し、日本美術の源流ともいえる縄文時代の魅力を紹介することができた。また、適切かつ分かりやすい展示を実現することができ、目標人数を大きく上回る来館者を得られたとともに、満足度も高く、年度計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1221Aｴ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（東京国立博物館）
エ　特別展「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」（10月2日～12月9日）
京都・大報恩寺所蔵の鎌倉彫刻を紹介するもの。（目標来館者数12万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部企画課長　浅見龍介

【実績】

展覧会名	特別展「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」
会　　期	10月2日(火) ～12月9日(日)　(60日間)
会　　場	平成館　3・4室
主　　催	東京国立博物館、読売新聞社
作品件数	47件
来館者数	197,004人（達成率：164.2%）
入場料金	一般1,400円、大学生1,000円、高校生800円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　86.3%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	京都・大報恩寺は、鎌倉時代初期に開創された古刹で、鎌倉時代の仏師、行快作の釈迦如来坐像、快慶の十大弟子立像、運慶の弟子で、行快とほぼ同じ世代である肥後定慶作の六観音菩薩像など鎌倉彫刻の名品が伝わる。本展覧会では関連する作品と合わせて鎌倉彫刻の名品を紹介した。
学術的意義	彫刻作品については事前に調査、写真撮影を実施し、その成果を踏まえて図録の執筆や図版の掲載をすることができた。また、六観音像についてはX線断層写真（CT）の撮影を実施し、今後の研究の貴重な資料を作成することができた。
教育普及	・記念講演会を2回開催した。第1回は10月12日の講演「千本釈迦堂・大報恩寺の歴史」を行い、参加者数292人であった。第2回は11月18日の講演「大報恩寺のみほとけ　運慶次世代の仏師と京都」を行い、参加者数325人であった。 ・「JAZZと声明の夕べ」を10月5日に2回開催した。第1回は310人、第2回は250人計560人の参加があった。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	記者発表会：4月25日実施　45媒体、59人出席。報道内覧会：10月1日実施　198名出席。ポスター、チラシ各種制作。駅大型ボード、東武日比谷線乗り入れドア横などを出稿。新聞：読売新聞　文化面特集、雑誌：「日経おとなのOFF」7月号、「芸術新潮」8月号テレビ：NHK「日曜美術館アートシーン」、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」、日本テレビ「バケット」などで報道。また、展覧会公式Twitterにて十大弟子総選挙を行うほど、幅広い広報活動を行った。
補　足	会場風景１　 会場風景２

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定
来館者数	197,004人	120,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 出品作品の調査・研究成果をふまえて、大報恩寺の鎌倉時代の彫刻を紹介することができた。また、六観音像は会期の途中で光背を外して像の背面が見えるようディスプレイの変更する工夫をした。目標人数を大きく上回る来館者を得られたとともに、満足度も高く、年度計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1221Aｵ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（東京国立博物館）
オ　東京国立博物館・フィラデルフィア美術館交流企画　　特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」（10月2日～12月9日）
　フィラデルフィア美術館が所蔵するマルセル・デュシャンの作品と日本美術と対比して、両者の持つ意味や価値観を浮き彫りにする。（目標来館者数5万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	文化財活用センター企画担当課長　松嶋雅人

【実績】

展覧会名	東京国立博物館・フィラデルフィア美術館交流企画　　特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」
会　　期	10月2日（火）～12月9日（日）　（60日間）
会　　場	平成館　1・2室
主　　催	東京国立博物館、フィラデルフィア美術館
作品件数	152件
来館者数	80,191人（達成率：160.4%）
入場料金	一般1,200円、大学生900円、高校生700円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　74.0%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	マルセル・デュシャン（1887－1968）は、伝統的な西洋芸術の価値観を大きく揺るがし、20世紀の美術に衝撃的な影響を与えた作家である。本展覧会の第1部「デュシャン　人と作品」では、フィラデルフィア美術館のデュシャン・コレクションより、油彩画、レディメイド、関連資料及び写真を含む計152点によって、創作活動の足跡を紹介した。第2部「デュシャンの向こうに日本がみえる。」では、もともと西洋とは異なった社会環境のなかで作られた日本の美術をデュシャンの作品と比べることによって、その意味や価値観を浮かび上がらせ、日本の美の楽しみ方を新たに提案した。
学術的意義	フィラデルフィア美術館所蔵のデュシャン作品が、この規模でまとまって展観されるアジア初の機会であり、マルセル・デュシャンの芸術活動の足跡を辿ることができる大変貴重な機会となった。また、当館の日本美術作品による展示を併催し、デュシャンを通して日本美術を再発見するこれまでにない斬新な試みとなった。
教育普及	・記念講演会「デュシャンの本質」を10月6日に開催し、参加者数292人であった。 ・トークショー「デュシャンの向こうに日本がみえる。」を10月16日に開催し、参加者数320人であった。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	記者懇談会にて概要説明：3月13日実施　報道内覧会（『大報恩寺展』と同時開催）152媒体、202人出席。ポスターB1、B2、プレチラシA4、本チラシA4を制作したほか、公式WEBサイト、応援Twitterアカウントを開設・運用した。交通広告では、JRおよび東京メトロの駅サイネージ、駅貼り広告を実施。また。J-WAVE、TBSラジオとのタイアップによる広報活動を実施。朝日新聞、産経新聞ほか中央各紙文化面、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」などで報道された。GINZA SIX内蔦屋書店での店頭キャンペーンを実施、これまでにない来館者層に向けた広報を展開、奏功した。
補　足	会場風景１　 会場風景2

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定
来館者数	80,191人	50,000人	A

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	フィラデルフィア美術館所蔵のデュシャン作品の大規模な展観はアジア初の機会であり、貴重な作品を紹介した。展示デザインは当館が担当し、見やすい展示とすることができた。目標人数を大きく上回る来館者を得られたとともに、話題性も高く、年度計画における目標を達成することができた。当館特別展では馴染みのない展示であったため、満足度が低い傾向になったと考えられる。来館者満足度を高める展示手法、解説の手法を今後、検討したい。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1221Aｶ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（東京国立博物館）
カ　日中平和友好条約締結40周年記念特別企画「中国近代絵画の巨匠　斉白石」（10月30日～12月25日）
　中国でもっとも著名な画家、斉白石の作品を紹介するもの。（目標来館者数2.5万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部企画課出版企画室研究員　植松瑞希

【実績】

展覧会名	日中平和友好条約締結40周年記念特別企画「中国近代絵画の巨匠　斉白石」
会　　期	10月30日（火）　～12月25日（火）（50日間）
会　　場	東洋館8室
主　　催	東京国立博物館、北京画院、朝日新聞社
作品件数	126件
来館者数	62,405人（達成率：249.6%）
入場料金	総合文化展観覧料
ｱﾝｹｰﾄ結果	―

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	日中平和友好条約の締結40周年を記念し、中国近代絵画の巨匠・斉白石の人と芸術を紹介する展覧会を開催した。斉白石（1864～1957）は、農家に生まれたが、画譜や古画を学び、写生に励んで画家として大成し、北京画院の初代名誉院長となった。現代中国では最も有名かつ人気のある画家の一人である。本展では斉白石の作品126件を展示した。
学術的意義	中国有数の斉白石コレクションである北京画院の所蔵品を日本で初公開した。また斉白石研究機関として著名な同院の研究員と協力し、斉白石の画業全体が見通せること、および日本とのかかわりを紹介することを留意しながら作品を選定、展示し、研究成果を図録やギャラリートークで発表した。
教育普及	・ギャラリートークを2回開催した。第1回は11月9日に「斉白石作品鑑賞入門」を開催し参加者数163人。第2回は12月11日に「斉白石の魅力」を開催し、参加者数170人であった
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	報道内覧会：10月29日実施　22媒体、26人出席。ポスター、チラシ各種制作。新聞：朝日新聞広告記事、雑誌：「Pen」12月号、「月刊美術」12月号、「芸術新潮」12月号、「ミセス」1月号など。
補　足	会場風景１ 会場風景２

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定
来館者数	62,405人	25,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 出品作品の調査・研究成果をふまえて、本邦初公開となる斉白石の書画を紹介した。また、適切かつ分かりやすい展示を実現することができ 、目標人数を大きく上回る来館者を得られたとともに、満足度も高く、年度計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1221Aキ

	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（東京国立博物館）
キ　特別展「顔真卿　王羲之を超えた名筆」（1月16日～2月24日）
　中国唐時代に活躍した顔真卿の書を紹介する。（目標来館者数6万人）

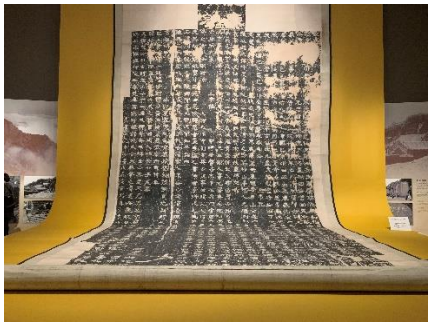
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部長　富田淳

【実績】

展覧会名	特別展「顔真卿　王羲之を超えた名筆」
会　　期	2019年1月16日（水）～2月24日（日）　（35日間）
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、毎日新聞社、日本経済新聞社、NHK
作品件数	177件
来館者数	198,920人（達成率：331.5%）
入場料金	一般1,600円、大学生1,200円、高校生900円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度81.1%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	中国唐時代に活躍した顔真卿は、前世代の虞世南、欧陽詢、褚遂良という初唐の三大家の伝統を継承しながら、顔法と称される特異な筆法を創出し、後世にきわめて大きな影響を与えた。本展では、書の普遍的な美しさを法則化した唐時代に焦点をあて、顔真卿の人物や書の本質に迫った。また、後世や日本に与えた影響にも目を向け、唐時代の書の果たした役割を検証した。
学術的意義	中国の歴史上、東晋時代と唐時代は書法が最高潮に到達した。本展は平成25年(2013)の「書聖王羲之」展を受けて開催されるもので、中国書法史を概観しつつ、日本初来日となる國立故宮博物院「祭姪文稿」「自叙帖」、香港中文大学文物館「九成宮醴泉銘」「集王聖教序」「李思訓碑」「麻姑仙壇記」や、数々の名品を一挙に展示する。
教育普及	・席上揮毫＆トーク「古典を受け継ぐ現代の書－世代をつなぐ筆墨の美－」を1月27日に開催し、参加者数321人であった。 ・記念講演会「顔真卿　王義之を超えた名筆」を 2月9日に開催し、参加者数309人であった。 ・本展開催にあわせて本館で「書体験」を開催した。 ・ボランティアを対象とした解説会を実施し、100人の参加者があった。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	記者発表会：7月26日実施　58媒体、83人出席。報道内覧会：30年1月15日、134媒体、170人出席。ポスター、チラシ各種制作。駅大型ボード、上野駅サイネージ、毎日新聞社電飾看板などを出稿。新聞：毎日新聞　特集、日本経済新聞　社告　雑誌：「和楽」1月号、「サライ」1月号、「日経おとなのOFF」1月号、「墨」1月号、「婦人画報」1月号　テレビ：NHK「美の壺」などで報道。
補　足	 会場風景

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定
来館者数	198,920人	60,000人	S

【年度計画に対する総合評価】 評定：S	【判定根拠、課題と対応】 出品作品の調査・研究成果をふまえて顔真卿の作品を咀嚼してその魅力を伝えることができた。あわせて、中国、日本の関連作品も展示することによって書道史における顔真卿の位置も伝えることができた。目標人数を大きく上回る来館者を得られたとともに、国外からの来館者も多く、年度計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 1221B７

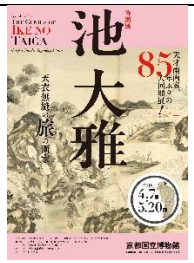
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（京都国立博物館）
ア　特別展「池大雅　天衣無縫の旅の画家」（4月7日～5月20日）
　与謝蕪村とともに「南画の大成者」と並び称される池大雅。初期から晩年にいたる代表作を一堂に集め、その画業の全体像を紹介する。（目標来館者数7万人）（38日間）

担当部課	学芸部	事業責任者	美術室研究員　福士雄也

【実績】

展覧会名	特別展「池大雅　天衣無縫の旅の画家」
会　　期	4月7日（土）～5月20日（日）（38日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、読売新聞社
作品件数	162件（うち国宝3件、重要文化財15件）
来館者数	67,399人（達成率：96.3%）
入場料金	一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　　90.2%



告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	第1章　天才登場―大雅を取り巻く人々、第2章　中国絵画、画譜に学ぶ、第3章　指墨画と様式の模索、第4章　大雅の画と書、第5章　旅する画家―日本の風景を描く、第6章　大雅と玉瀾、第7章　天才、本領発揮―大雅芸術の完成、以上の7章の構成で各テーマの画業を代表する作品162件を展示した。 ・【第1章】「池大雅像」福原五岳筆（当館蔵）、「与池野氏又次郎童子偈」杲堂元昶筆（京都府蔵）など ・【第2章】『芥子園画伝』（個人蔵）、「腕底煙霞帖」李珩筆（個人蔵）など ・【第3章】「柳渓渡渉図」池大雅筆（千葉市美術館蔵）、「密林草堂図」池大雅筆（個人蔵）など ・【第4章】「五君咏図」池大雅筆（個人蔵）、「騰雲飛濤図」池大雅筆（個人蔵）など ・【第5章】重文「陸奥奇勝図巻」（九州国立博物館蔵）、「浅間山真景図」池大雅筆（個人蔵）など ・【第6章】「大雅・玉瀾旧居図」伝月峰筆（個人蔵）、「松壑仙境・梅岳帰隠図」池大雅・徳山玉瀾筆（敦井美術館蔵）など ・【第7章】国宝「楼閣山水図屏風」池大雅筆（東京国立博物館蔵）、重文「洞庭赤壁図巻」池大雅筆（当館蔵）など
学術的意義	・大雅の代表作をほぼすべて網羅し、さらに新発見作品や長らく公開されることのなかった作品をこれに加えることで、画家の全貌を示すことができた。 ・大雅作品のみならず、大雅の交友関係を示す他作家の作品、史料を展示することで、大雅の幅広い人脈とその意義を明らかにした。 ・大雅が数多く行った旅に注目し、その制作活動における意義を検証した。 ・大雅作品の重要な領域である真景図について、旅との関わりだけでなく同時代における蘆園派詩人たちの動向と関連付けて考察し、大雅が絵画史上に果たした先駆的な役割を明らかにした。
教育普及	記念講演会（5回） 　4月7日「自由な魂を求めて－池大雅の憧れた文人的世界－」／4月14日「西湖への憧れ－大雅の名勝図を体感する－」／4月21日「旅する画家の絵」／4月28日「池大雅の絵画－あるいは卵の殻と黄身との関係－」／5月12日「大雅と蕪村－十便十宜図を中心に－」 　ワークショップ「指で描こう！指墨画にチャレンジ」を実施。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	・運営：高い密度で作品を展示したが、滞留を発生させることなく快適な観覧環境を維持した。 ・広報等：NHK日曜美術館（4月29日）にて放映、WEB動画・ニコニコ生放送（5月8日）にて放映、その他多種多様のメディアにて広報した。 ・俳優の松平健氏を特別展のアンバサダーとし、記念撮影会やトークイベントを実施することで重点的に集客と広報を図った。 ・サービス：すべての作品にキャッチコピーと視認性の高い多言語キャプションを付すことで、日本人のみならず海外からの来館者に対するサービスも充分であった。
補　足	

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定
来館者数	67,399人	70,000人	C

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	池大雅の過去最大規模の回顧展であり、大雅の国宝・重要文化財がすべて展示されるという記録に残る特別展であった。目標来館者数にはわずかに至らなかったものの、現代では難解なイメージでと捉えられがちな「文人画家」の実像と魅力を、作品を通して多くの来館者と共有することに成功した。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 1221Bｲ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
（京都国立博物館）
イ　特別展「京のかたな　匠のわざと雅のこころ」（9月29日～11月25日）
　現存する京都＝山城系鍛冶の作品のうち、国宝指定作品のほぼ全てと、著名刀工の代表作を中心に展示する。（目標来館者数8万人）（50日間）

担当部課	学芸部	事業責任者	工芸室主任研究員　末兼俊彦

【実績】

展覧会名	特別展「京のかたな　匠のわざと雅のこころ」
会　　期	9月29日(土)～11月25日(日)(50日間)
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、読売新聞社、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿
作品件数	200件(うち国宝21件、重要文化財71件)
来館者数	253,003人（達成率：316.3%）
入場料金	一般1,500円、大学生1,200円、高校生700円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度97.7%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	京都国立博物館の特別展として初の刀剣を主テーマとする展覧会。館の所在地である京都＝山城国で製作されてきた刀剣の代表作品を網羅することで、「刀から京都の歴史を紐解く」ことを目的とし、平安時代末期12世紀から21世紀までのおよそ800年に渡る京都のかたなを通史的に展示した。現在東京国立博物館所蔵となっている国宝「太刀　銘三条（名物三日月宗近）」をはじめ、数百年ぶりに京都へ戻った作品も多く、日本史研究の視点だけではなく美的優品鑑賞の点からも画期的な企画であった。
学術的意義	・京都で製作された刀剣を通史的に時代・作者・工房・流派ごとに揃え、作家性の問題や技術系譜、時代背景のもたらす変化などを日本の歴史とリンクさせ、大局的な視点で分析を行う初の試みとなった。 ・事前調査によって、詳細が不明であった祇園祭長刀鉾町に伝わる大薙刀の伝来と天文法華の乱における洛中の被害、滋賀県蒲生郡に集住した刀工集団石堂派の実態など多くの新知見を得た。 ・図録に所載された作品の写真についても可能な限り新規撮影を行い、また全作品の詳細な法量を計測し掲載することで、今後の刀剣研究の基礎資料として永く耐えうる研究書とした。図録の販売冊数は5万部に達し、この種の研究書として異例の発行部数となった。 ・従来、集客力に劣るとされていた刀剣をテーマとする展覧会として過去最大の動員数を獲得した。特に来館者の大半を若年女性層が占め、今後の文化財保存や日本文化への入り口として博物館教育ならではの成果を出すことに成功した。
教育普及	・記念講演会（7回） 9月29日「京のかたな」／10月6日「京のかたなⅠ―古刀―」／10月13日「京鍛冶の黄金期―粟田口から来派へ―」10月20日「日本刀の源流―日本の原始古代刀―」／10月27日「京のかたなⅡ―新刀―」／11月3日 対談「『京のかたな』総まとめ」／11月10日「合戦絵巻と武器・武具の研究」 ・ワークショップ「まぢかで見よう！はじめての刀」 ・多言語による特別展「鑑賞ポイント」の作成
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	・特に人気のある作品については、最前列で鑑賞するための待ち列を設け、混雑対策を行った。 ・高校生料金を通常より安価に設定することで若年層の誘客を図った。 ・「日曜美術館」、「歴史秘話ヒストリア」、「英雄たちの選択」等の訴求力のある番組に協力し、刀剣の魅力を紹介するとともに、WEB媒体で記者発表や展覧会紹介番組の動画生配信を実施し集客を図った。 ・オンラインゲームと連携し、人気のある声優を起用した特別版の音声ガイドを作成し好評を博した。 ・多数のオリジナルグッズを制作することで、満足度の向上と売上に貢献した。
補　足	・明治古都館において、関連展示を実施した。

【定量的評価】項目	年度実績	目標値	評定
来館者数	253,003人	80,000人	S

【年度計画に対する総合評価】
評定：　S

【判定根拠、課題と対応】
一般的には集客に難がある分野にも関わらず、地上波、衛星放送、雑誌、WEB、SNS 等の多様なメディアを複合的に活用し刀剣ブームを鑑賞へと結び付けた。即時性を意識した運営及び広報展開の成功は、今後の事業の手本となるものであった。
展覧会の計画から実施の面においては多くの課題を内包していたが、若年層の動員数や新知見を満載した図録の販売数を勘案すると、本展覧会の刀剣研究及び文化財活用への貢献は、欠点を補って余りあるものであった。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221Cア

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　創建1250年記念特別展「国宝　春日大社のすべて」（4月14日～6月10日）
　平成30年に創建1250年となる長い歴史を持つ春日大社の沿革を辿りながら、信仰の精髄ともいえる古神宝、奉納品に注目し、その魅力に迫る。（目標来館者数5万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	工芸考古室長　清水健

【実績】

展覧会名	創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」
会　　期	4月14日(土)～6月10日(日)（51日間）
会　　場	奈良国立博物館　東・西新館
主　　催	奈良国立博物館、春日大社、朝日新聞社、ＮＨＫ奈良放送局、ＮＨＫプラネット近畿
作品件数	224件（うち国宝57件、重要文化財47件）
来館者数	95,950人（達成率：192.0%）
入場料金	一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　87.7%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	春日大社の創建1250年に当たって、国宝に指定される本宮御料古神宝類、若宮御料古神宝類を始めとする春日大社の伝来の社宝、全国に展開した春日信仰に関わる品々を網羅的に収集し、信仰の原点と広がりを提示して、「春日大社のすべて」に迫ることを企図した。 展示は9章構成で、第1会場の東新館に「第1章　平安の正倉院」、「第2章　神宝」を充て、多数の国宝がひしめく春日大社伝来の社宝の数々によって観覧者を圧倒した。第2会場の西新館は、1250年の歴史と信仰の拡大を追う構成とし、「第3章　春日大社の創建」では出土品や文献史料、第一殿の祭神を祀る鹿島神宮から直刀・黒漆平文大刀拵（国宝）を、第二殿の祭神を祀る香取神宮から海獣葡萄鏡（国宝）をそれぞれ借用し、創建の謎に迫った。「第4章　国の護り、氏社」、「第5章　春日曼荼羅の世界」、「第6章　春日権現験記絵の世界」では、藤原氏とともに発展していった春日大社の古代・中世像を、多くの造形美術を通じて紹介した。「第7章　春日大社の神と仏」では、仏像や経厨子などの仏教美術を展示し、神仏習合の有様を示した。「第8章　春日大社の祭礼」、「第9章　春日信仰の広がり」では、春日大社の祭礼に関わる品や全国の春日神社に伝わった宝物、春日講ゆかりの品々を通じて信仰の広がりが1250年の祈りを支えたことを改めて提示した。
学術的意義	春日大社に留まらず、春日信仰の全体像に迫る内容となり、さながら百科全書のような展示を構成することができた。美術史学、文学、歴史学等の最新の成果を踏まえ、研究の最前線を示せたものと自負している。殊に多数の春日曼荼羅を体系的に展示し、比較研究を可能にした点や、伸長著しい春日権現験記絵研究の前線を示した点、大規模な展覧会で取り上げられることのなかった春日講という民間信仰に踏み込んだ点は特筆されてよいであろう。また春日大社所蔵鼉太鼓の修理の成果や知見、古神宝類の復元模造の成果や知見をこの機会に披露することができた点も十分な意義を有すると考える。加えて、当館がかつて春日東西塔の建っていた場所に位置することを強調し、展示を通じて春日大社の歴史を観覧者が体感できるよう誘った点も、今後有形無形に意義を生み出すことであろうと期待している。
教育普及	会場には簡潔に要点をまとめたコーナー解説や題箋、理解を助けるための写真パネルや地図、補助パネルを多数掲示し、理解の促進に努めた。また、共催のＮＨＫプラネット近畿の協力を得て、ドローンによる撮影映像を交えた展示映像を作成し、春日大社の全体像の提示を補完した。 会期中に公開講座を4回実施し、「神仏習合」をテーマとする関連フォーラムも実施した。加えて、共催のＮＨＫ奈良放送局の協力を得てジュニアガイド「かるたで遊ぼう　春日大社のすべて」を作成し、奈良市内の小学校に配布するなど学童への普及にも努めた。なお、雨天により春日大社学芸員・当館研究員と境内・参道・当館敷地（旧境内）を回るウォーキングイベントが中止になったのは痛恨であった。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	幅広い世代に浸透を図るため、シカグッズ等を持参した来館者に対する割引（「シカ割引」）を実施した。また、鹿と藤をモチーフにした公式キャラクター（「鹿藤きょうだい」）の設定などを行い、当館ツイッターに加えて展覧会の公式ツィッターも開設し、広報に努めた。さらに、春日大社境内への看板の掲出、割引券の配布を行い、参拝者の誘客に努めた。一方、春日大社への誘導を促すために参道の見所を記した参道マップを作成し、館内で配布した。
補　足	展覧会図録の執筆には春日大社学芸員も参画し、さらに第一線の研究者の寄稿も得て、非常に充実した内容となった。後日春日大社における1250年記念式典の記念品としても配付された。

【定量的評価】項目	年度実績	目標値	評定
来館者数	95,950人	50,000人	S

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｓ	【判定根拠、課題と対応】 春日大社、春日信仰の全体像を、周辺の環境を含めて提示することができ、展覧会名に恥じない春日大社展の決定版とすることができた。殊に神社の展覧会にして、神仏習合像を赤裸々に示した意義は小さくないと思われる。また、様々な広報・普及の展開等によって、目標を超える多数の来館者に繋がり、かつ高い満足度を得、加えて収益を生み出したことは、展覧会として総合的に成功であったといえるであろう。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　1221Cイ

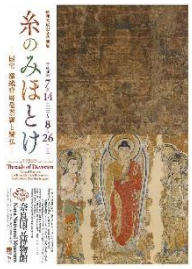
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
イ　修理完成記念特別展「糸のみほとけ-国宝　綴織當麻曼荼羅と繡仏-」（7月14日～8月26日）
　国宝　綴織當麻曼荼羅の修理完成を記念し、古代から近世にかけての繡仏、綴織による仏像の名品を一堂に集め、糸のみほとけの世界を展観する。（目標来館者数5万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績】

展覧会名	修理完成記念特別展「糸のみほとけ-国宝　綴織當麻曼荼羅と繡仏-」
会　　期	7月14日(土)～8月26日(日)（40日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、読売テレビ、日本経済新聞社
作品件数	138件（うち国宝9件、重要文化財35件）
来館者数	45,175人（達成率：90.4%）
入場料金	一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
ｱﾝｹｰﾄ結 果	満足度　95.9%



告知チラシ

【成果】

企画構成展示作品	第1章　飛鳥時代―日本最初の造像は繡仏だった　（国宝・天寿国繡帳〔中宮寺〕、重文・繡仏裂〔東京国立博物館〕） 第2章　綴織當麻曼荼羅―鬼籍の綴織　（国宝・綴織當麻曼荼羅〔當麻寺〕、綴織當麻曼荼羅復元模造〔川島織物〕） 第3章　奈良時代―巨大繡仏の時代　（刺繡霊鷲山釈迦如来説法図〔大英博物館〕、国宝・刺繡釈迦如来説法図〔当館〕） 第4章　平安時代から鎌倉時代へ―美麗の繡仏　（重文・刺繡阿弥陀三尊像〔西念寺〕、重文・刺繡大日如来像〔細見美術館〕） 第5章　中国の繡仏―多彩かつ緻密　（重文・刺繡九条袈裟貼屏風〔知恩院〕、刺繡十六羅漢像図〔三井記念美術館〕） 第6章　浄土に続く糸―刺繡阿弥陀来迎図　（重文・刺繡阿弥陀三尊来迎図〔徳川美術館〕、刺繡當麻曼荼羅〔真正極楽寺〕） 第7章　髪を繡い込む―種子と名号　（重文・刺繡種子阿弥陀三尊図〔輪王寺〕、刺繡阿字図〔正智院〕） 第8章　近世の繡仏―繡技の到達点　（刺繡仏涅槃図〔妙国寺〕、刺繡聖徳太子摂政像〔叡福寺〕）
学術的意義	繡仏（刺繡の仏像）と織成像（綴織の仏像）を体系的に集めた特別展である。同様の内容の展示は半世紀前に当館で開催されて以来であり、繡仏と織成像が仏像、仏画と並ぶ重要な造像技法であり、多くの名品を生み出していることに大きな衝撃を与えることができた。展示では飛鳥時代から江戸時代に至る繡仏と織成像の歴史をたどり、日本人の信仰、とりわけ女性信仰、死者の供養との関連に注目した。従来、個々の作品の製作年代については一定した基準がなかったが、本展ではそのものさしを提示できたと思う。また、これまで唐製とする説が強かった当館の国宝・刺繡釈迦如来説法図を、飛鳥時代後期の作とする新説を提示するなど、学問的にも大きな貢献を果たした。とりわけ、大英博物館より敦煌伝来の刺繡霊鷲山釈迦如来像を借用できたことは学術的な意義が大きく、日中の主要繡仏作品を網羅することができた。また、刺繡技法を刺繡工芸家に、綴織技法については川島織物セルコンの技師に学び、復元模造を製作するなど技法面にも配慮した。従来、刺繡技法の名称は不統一であったが、同展で一つの方向性を示すことができた。この成果は展覧会目録に発表した。
教育普及	・講演会3回（7月21日、8月4日、8月11日） ・夏季講座（8月22、23、24日、8講座） ・川島織物セルコンの技師による綴織実演と解説（7月22日） ・刺繡工芸家、樹田紅陽氏によるワークショップ（8月5日） ・親子向けワークショップ「織ってみよう！糸のみほとけ」（7月29日） ・こども無料日（7月28日〔土〕、29日〔日〕） ・オリジナル手芸作品展示コーナー（一般の人から手芸作品を応募してもらい、当館地下回廊に展示）
その他（運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	展示会場において４Ｋ撮影の映像を３本（刺繡技法に関する映像、綴織當麻曼荼羅の復元に関する映像、真正極楽寺の刺繡當麻曼荼羅の細部を鑑賞する映像）を上映した。また、iPadを使用し、主要作品の部分拡大、技法解説を学ぶことのできるコンテンツを作成し、会場に４台設置した。
補　足	通常であれば、ケースのガラス面から1mほど離れた位置での展示となるところ、本展ではほとんどの作品に対して、15cmほどの近さで鑑賞できるように配慮した。アンケートやＳＮＳには近くで鑑賞できることに対する高評価が多く見られた。3,4時間かけて鑑賞する人も少なくなく、快適な環境でじっくりと作品を鑑賞するという、博物館のあるべき姿勢を提供できた。

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定
来館者数	45,175人	50,000人	C

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 猛暑の時期であり、また染織品の展覧会であるため会期が短く、目標人数には手が届かなかったが、日本を代表する繡仏・織成像の国宝３件（天寿国繡帳〔中宮寺〕、綴織當麻曼荼羅〔當麻寺〕、刺繡釈迦如来説法図〔当館〕）を同時に展示し、さらに大英博物館より刺繡霊鷲山釈迦如来説法図を借用、日本での初公開を行うなど、質が高く充実した内容の展示を行うことができた。また、来場者が間近で作品を鑑賞できるよう、展示品をケースのガラス面に近づけるなどの工夫を行ったことにより、アンケート結果では95.9%という非常に高い満足度が得られたこと等を加味し、Ｂ判定とした。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1221Cｳ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ウ　特別展「第70回　正倉院展」（予定）
正倉院に伝わる宝物約70件を展示。（目標来館者数18万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	工芸考古室長　清水健

【実績】

展覧会名	第70回　正倉院展
会　　期	10月27日（土）～11月12日（月）（17日間）
会　　場	奈良国立博物館　東・西新館
主　　催	奈良国立博物館
作品件数	56件
来館者数	245,832人（達成率：136.6%）
入場料金	一般1,100円、高校・大学生700円、小・中学生400円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　85.9%

告知チラシ

【成果】

企画構成 展示作品	天平文化の精華を広く国民に公開する秋恒例の展覧会。70回目となった30年度は、正倉院宝物が概観できる器物、染織品、文書・経巻など初出陳10件を含む56件が出陳された。今回は、第1会場（東新館）を北倉伝来の聖武天皇・光明皇后ゆかりの宝物から始め、儀式用具から法会と供養に関する宝物へと繋げた。第2会場（西新館）は法会で行われた音楽と舞踊に関わる宝物を筆頭に、楽器で繋ぐかたちで新羅の文物と交易に至り、華厳経論帙を媒介に経典に関する宝物という観点で聖語蔵経巻の展示に展開させた。さらに仏教の繋がりで奈良時代の仏教荘厳について紹介し、正倉院文書で締め括った。全体としては、奈良時代の宮廷の暮らしから、貴顕の祈り、祈りの場を彩った楽舞の世界へと進み、新羅との交流を示す部分を挟んで、仏教への祈りが生み出した美の世界を提示し、それらを支えた社会生活についての展示で締め括るという構成であった。
学術的意義	正倉院宝物を大規模に公開するほぼ唯一の機会であり、とりわけ初出陳の宝物は、一般に公開されるのが史上初めてであることから、本展が開催されること自体が大きな学術的意義を持つと考えられる。また今回は、最新の麻製品に関する調査を踏まえた内容となった点や、朝鮮半島の新羅の文物がまとまって出陳され､遣唐使ばかりに目が行きがちな奈良時代の国際交流に一石を投じられた点が特筆される。 図録には多くの新写や初公開を含む多数のカラー図版を掲載し、最新の知見を踏まえた解説を、用語解説を付して収録し、成果の普及及び理解の促進に努めた。また最新の知見を含む小論文（｢宝物寸描｣）も掲載し、研究の最前線を提示した。
教育普及	会場には宝物毎に簡潔な解説を付した題箋を設置した。また正倉院宝物の概要や、上記の構成に添ったコーナー毎の見所を記したパネルや部分拡大図、技法解説などを随所に配置して、理解の促進を図った。そのほとんどは日・英・中（簡体字）・韓の4言語とし、国際的な理解の促進に注力した。 会期中には公開講座3回､「新羅」をテーマとした学術シンポジウム、解説付きの親子鑑賞会を各1回実施した。また1日4回（公開講座の日は会場の都合で2回）、ボランティア解説員による見所解説を講堂にて行った。さらに、会期前には大学1校で、研究員による出前授業を実施した。
その他 （運営･広報･ｻｰﾋﾞｽ等）	特別協力者（新聞社）の協力を得て、29年度に続いて東京でも報道発表を行い、また新聞広告・交通広告を大規模に展開し、周知に努めた。さらに、特別協力者と協力して新聞の特集紙面を構成し、会場でも配布したほか、奈良県内の学校等へも送付した。 館内に予約制の託児室を設け、観覧環境の充実に努めた。また待ち列部分で映像を流し、観覧環境の向上や観覧マナーについて啓発及び注意喚起を行った。加えて、29年度に続いて手荷物預かり所を設置し、コインロッカーを増設して、観覧環境の向上を促した。 会場は自由動線とし、壁沿いの展示をできるだけ減らすなど混雑緩和を図った。また29年度に初めて実施した車椅子でみやすい高さの展示を拡充し、西新館第1・2室で行った。混雑との相関はあまり認められなかったことから、拡充について今後一層検討したい。 学芸部で監修した日・英・中（普通話）・韓・子ども用の音声ガイドを有料で貸し出した。
補　足	【公開講座】公開講座の日時、テーマ、講師は以下の通り。 10月27日（土）「鳥兜様の楽帽の復元について」山片唯華子氏（宮内庁正倉院事務所） 11月4日（日）「月借銭のしくみ―古代の官営高利貸―」栄原永遠男氏（大阪市立大学名誉教授） 11月10日（土）「正倉院三彩10話―正倉院に伝わる二彩・三彩陶器の特徴と謎―」吉澤悟（当館）

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定
来館者数	245,832人	180,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 29年度より来館者が大幅に増加したにもかかわらず満足度も増加しており、経験値を活かした良質な展示情報の提供、過度のストレスのかからない観覧が概ね達成できたものと評価される。一方展示の高さや題箋の文字及び掲示位置、照明に関する不満は解消されておらず、一層努力を重ねたい。なお、一部の照明に関しては現在正倉院事務所と協議を重ねており、31年度には改善に漕ぎ着けたい。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 1221Dｱ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ア　特別展「王羲之と日本の書」(2月10日～4月8日、50日間)
　王羲之が日本の書の展開に与えた影響をたどりつつ、近世・中世以降の多彩な書の美に光を当てる当館初の、書を取り上げた展覧会。(目標来館者数4万人)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	前文化財課資料登録室長　丸山猶計

【実績】

展覧会名	特別展「王羲之と日本の書」
会　　期	30年2月10日(土)～4月8日(日)（50日間）
会　　場	九州国立博物館 特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＴＮＣテレビ西日本
作品件数	116件（うち国宝26件、重要文化財18件）
来館者数	70,110人（達成率：175.3%）
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　89.6%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	・手で文字を書くことが激減した今日、かつて身近にあった書の文化の魅力に光をあて、日本語を手で書く意義を再確認し、筆跡に親しむ方法を呼びさますことを目的とした。 ・展示は4章で構成した。第1章「王羲之へのあこがれ」は王羲之や唐時代の中国書法を範とした平安初期の遺品を展示し、第2章「和様の書と平仮名の完成」は平安中期の和様の書と平仮名の諸相を紹介し、第3章「和漢の書の新展開」は中世の和様と禅宗とともに中国からもたらされた唐様の書の諸相を示し、第4章「書の娯しみと花開く個性」は平和が到来した近世社会において、より広範な人々が和漢の書法を自在に揮毫し個性や表現を競った時代として紹介した。
学術的意義	・活字との違いを念頭に、個々の作品の魅力を書のもつさまざまな特質に結び付けて紹介した。図録の作品解説では、文字を読んでわかることと目で文字を見てわかることを併記する体裁をとった。 ・名品ほど読まれることと同時に見られることも意識して揮毫しているため、見るだけで書の魅力を享受できることを、会場の教育普及パネル等で説明した。 ・国内にある双鉤填墨本の王羲之尺牘４件が揃い、嵯峨天皇宸翰「光定戒牒」(国宝、滋賀・延暦寺所蔵)が通期で展示されるなど、質の高い作品が集められた。
教育普及	・古い書跡に親しむための基礎知識と、本展で提案する書の見方について、「書の神様」菅原道真と王羲之をキャラクター化し、「楽しみま書」と題して、パネルを展開させた。 ・漢字仮名交じり文は、縦書きによって高い実用性と美を両立したことを、平仮名の連綿を例に説明した。タブレット端末を用い、平安中期の平仮名の典型作である「高野切」の連綿箇所を縦書きと横書きで書き比べる体験コーナーを設けた。 ・筆線の中の、命毛の軌跡と、潤渇や濃淡の変化を高低差であらわし、このモデルに基づき、「伊達政宗自筆書状」を用いて、三次元プリンターで出力し、筆跡のハンズオン展示を行った。三次元化した筆の軌跡に触れると、濃淡の変化が高低差として触診でき、離れて見ると視覚的な遠近感がわかり、来館者の理解を深めることができた。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	・講演会を2回、現代作家による席上揮毫会を2回行い、研究と実技の両面から古今にわたる書の文化的価値を紹介した。 リレー講座「王羲之と日本の書」「王羲之愛好と書の魅力」館長　島谷弘幸（2月10日）、リレー講座「王羲之と日本の書」「古い筆跡たちのささやき」学芸部文化財課資料登録室長　丸山猶計（2月17日） 第1回席上揮毫会　出演：黒田賢一氏、陣軍陽氏、岩田海道氏（2月11日）、第2回席上揮毫会　出演：髙木聖雨氏、吉田成美氏、吉村宣枝氏（2月18日）
補　足	・図録購入率は、来館者の2%台が通例であるが、本展では9%台に上った。 ・西日本新聞で本展の教育普及活動が注目され、4回連載のコラムとして紹介された。

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定
来館者数	70,110人	40,000人	A

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 　客足の遠のきがちな寒い時期にもかかわらず、来場者数と図録の売行きが予想以上に好調であった。 　SNS 等の書きこみから、本展では教育普及の要素を多く取り入れた展示手法が好評を博し、リピーターが多く醸成されたことが窺え、新しい書の愛好者を開拓することができたと考えられる。

【書式Ａ（特別展）】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1221Dイ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
イ　特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」（5月19日～7月16日、55日間）
スイス・チューリヒにあるビュールレ・コレクション美術館から印象派を中心とした名品を紹介する。（目標来館者数12万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	学芸部特任研究員　臺信祐爾

【実績】

展覧会名	至上の印象派展　ビュールレ・コレクション
会　　期	5月19日(土)～7月16日(月・祝)（54日間）＊7/7は大雨のため休館。
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州
作品件数	64件
来館者数	198,489人（達成率：165.4%）
入場料金	一般 1,600 円、高大生 900 円、小中生 500 円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　84.8%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	・ドイツに生まれ、スイス・チューリヒで実業家として成功を収めたエミール＝ゲオルク・ビュールレ（1890－1956 年）が集めた印象派とポスト印象派を中心とする世界的プライベート・コレクションを紹介する特別展。16～18 世紀のオランダやヴェネツィア派の絵画、フォーヴィスム、キュビスムやモダン・アートの名作もあわせて展示した。 ・主な作品は、ルノワールの《イレーヌ・カーン・ダンヴェール嬢（可愛いイレーヌ)》、セザンヌ《赤いチョッキの少年》、ファン・ゴッホ《種まく人》、ゴーギャン《贈りもの》や、モネ《睡蓮の池、緑の反映》など。約半数が日本初公開。 ・2020 年に、本コレクション全点が増築後のチューリヒ美術館に寄託されることになっており、その全貌をわが国で見る最後の機会であった。
学術的意義	印象派・ポスト印象派を中心とするプライベート・コレクションとして世に名高い本コレクションは、現地でしか見ることができない幻のコレクションであった。我が国を巡回した本展覧会は、17～20世紀に及ぶヨーロッパ絵画の歴史について学ぶ、またとない機会となった。
教育普及	・大人向けの4か国語音声ガイドに加え、こども向けの音声ジュニアガイド（日本語のみ）を作成した。また、冊子のジュニアガイドを作成し、来館した小学生や近郊の小学校で配布した。 ・本展ゲスト・キューレーターの深谷克典名古屋市美術館副館長が、記念講演「印象派の至宝を楽しむ。ビュールレ・コレクションの名画の数々」を行った。 ・NHK Eテレの番組「ガールズ・クラフト」のスペシャルワークショップでイレーヌの肖像画に触発された髪飾り作りを開催した。同じくEテレの番組「びじゅチューン」、「井上涼の印象派ライブin福岡」を実施した。
その他 （運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	・館外に待ち列ができないよう、エントランス及びミュージアムホールに来場者用の滞留場所を確保し、展示室内の鑑賞環境が快適なものとなるようエスカレーター前で入場者数を緩やかに制限した。ルノワール《イレーヌ・カーン・ダンヴェール嬢（可愛いイレーヌ)》とモネ晩年の大作《睡蓮の池、緑の反映》について、写真撮影可とした。SNSでの拡散により、来館者の増大につながった。 ・来館者に好きな作品を挙げてもらう「64作品人気投票」を実施し、結果を西日本新聞にて発表した。 ・セザンヌ、ファン・ゴッホとゴーギャンの映画上映にあわせて、映画館で本展を紹介するなど積極的に広報に努めた。 《可愛いイレーヌ》撮影の様子
補　足	7月上旬の大雨（30年7月豪雨）のため、7月6日には太宰府市に避難勧告が発令され、当館も同日午後より臨時閉館し、翌日も終日臨時休館となった。そのため、当初計画の会期55日が54日（実際は53日と半日）となった。

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定
来館者数	198,489人	120,000人	S

【年度計画に対する総合評価】 評定：S	【判定根拠、課題と対応】 我が国でも人気が高い印象派とポスト印象派の名品に加え、ヨーロッパ絵画の歴史を学ぶ得難い機会であった。また、1990-91 年の横浜展の来日以後、鑑賞の機会が 2018 年以後現地でもなくなってしまったビュールレ・コレクションを実際に見ることができた来館者の満足度は極めて高く、SNS などでの拡散により、来館者の順調な伸びにつながったものと思われる。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 1221Dｳ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
ウ　明治150年記念　特別展「オークラ　コレクション」（古今の美を収集した、大倉父子の夢）（10月2日～12月9日、60日間）
現存では日本初の私立美術館として開館した大倉集古館の日本美術、東洋美術の名品コレクションを紹介する。
（目標来館者数4万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化財課主任研究員　山下善也

【実績】

展覧会名	［明治150年記念］　特別展　オークラコレクション
会　　期	10月2日(火)～12月9日(日)（59日間）＊10/6は台風のため休館。
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TVQ九州放送
作品件数	112件（うち国宝3件、重要文化財10件、重要美術品16件）
来館者数	63,069人（達成率：157.7%）
入場料金	一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度　83.5%

告知ポスター

【成果】

企画構成 展示作品	第1章「日本美術の王道」(1.祈りのかたち、2.国宝の輝き、3.やまと絵から琳派へ、4.室町水墨から狩野派へ、5.多彩な近世絵画、6.日本工芸の美)、第2章「アジアに開いた眼」(1.中国、2.朝鮮、3.タイ、ミャンマー、インド)、第3章「日本から世界へ―珠玉の近代絵画」(ローマ日本美術展)。国宝の「古今和歌集序」「随身庭騎絵巻」「普賢菩薩騎象像」の展示他、日本・東洋美術で構成。
学術的意義	大倉財閥を築いた大倉喜八郎・喜七郎親子が明治・大正・昭和にわたって収集した日本・東洋の美術品コレクション（大倉集古館が保管・展示－同館は改修工事のため休館中）を通じ、喜八郎が行った文化財保護の志、喜七郎による海外への日本文化発信といった歴史的意義を紹介するとともに、アジア諸国の多様なコレクションに光を当てることを目的とした。
教育普及	特別講演会2回開催：「大倉集古館の近世絵画-狩野派、琳派など魅力の作品群をめぐって-」学芸部文化財課主任研究員　山下善也　10月8日(月・祝)、「大倉集古館 － 日本最初の美術館はなぜできた？ -」、学芸部長　小泉惠英　10月13日（土）。 関連イベント：「オークラウロ・コンサート」小湊昭尚氏ほか3人によるカルテット、11月4日（日）。 展示室における自在置物「蟷螂」(拡大模造を館内で製作）のハンズオン展示、各コーナーで教育普及展示パネルを制作し、収集家の人物像や時代背景の理解を助けた。
その他 (運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等)	開幕後最初の土曜日に台風に見舞われ、臨時休館を余儀なくされたが、ポスター・ちらし・インターネット・新聞広告・各種ミニコミ誌・テレビ取材・出張講座等の効果が徐々に表れ、右肩上がりに観覧者は増加した。
補　足	

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定
来館者数	63,069人	40,000人	A

【年度計画に対する総合評価】
評定：A

【判定根拠、課題と対応】
目標人数を達成した。明治維新以降の文化財保護及び収集の歴史の具体例を、質の高い美術品群によって示した本展覧会は、「明治 150 年記念」という我が国の施策とも呼応した事業であり、大きな成果を挙げたと言える。また、来館者アンケートによる満足度について、「とてもよかった」および「よかった」との回答割合が、展覧会の内容については 94%、解説文については 77%が、展示方法については 85%と高かった。これは、展覧会の意義を観覧者に充分に伝え得たことの表れと判断できる。

【書式Ａ（特別展）】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　1221Dｴ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　1)特別展

【年度計画】
エ　特別展「京都・醍醐寺―真言密教の宇宙―」（31年1月29日～3月24日、48日間）
　真言密教の拠点として平安時代以来発展してきた醍醐寺の寺宝を、開基聖宝、修法、法脈の継承、江戸期の再興といった視点から紹介する。（目標来館者数7万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化財課資料登録室主任研究員　森實久美子

【実績】

展覧会名	特別展「京都・醍醐寺―真言密教の宇宙―」
会　　期	31年1月29日（火）～3月24日（日）（48日間）
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	総本山醍醐寺、九州国立博物館・福岡県、ＴＶＱ九州放送、西日本新聞社、日本経済新聞社、ＢＳテレビ東京
作品件数	104件（うち国宝32件、重要文化財49件）
来館者数	74,748人（達成率：106.8%）
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円
ｱﾝｹｰﾄ結果	満足度89.0%

告知ポスター

【成果】

企画構成展示作品	真言密教の古刹として知られる京都・醍醐寺に伝わる15万点もの寺宝から、開創から近世に至るまでの各時代の名品を展示し、多くの人々の篤い信仰と千年以上にわたる激動の歴史を概観した。展示室では、国宝・薬師三尊像をかつての安置状況を再現した空間で展示したほか、彫刻や絵画など迫力の密教美術を数多く紹介した。
学術的意義	膨大な寺宝のなかから選りすぐった104件（うち国宝32件、重要文化財49件）の展示を通して、千年以上にわたり法灯を伝えてきた小野流の拠点寺院としての醍醐寺の重要性をあらためて認識させる展示となった。とくに、大型作品のため機会の限られる「薬師三尊像」や「太元帥法本尊像」の展示は貴重であり、本展の意義を一層高めるものとなった。
教育普及	一般の方にはあまり馴染みのない「密教」について深く知ってもらうため、不動明王をモデルとした「不動明王（ふどうあきお）」をナビゲーターとする解説パネルを10枚程度作成した。イラストを中心とした分かりやすいレイアウトと平易な文章によって、子どもだけでなく大人にも楽しんでもらえる内容として好評を得た。 ・リレー講座「醍醐寺展をより楽しむための醍醐味講座」　展示課長　楠井隆志、学芸部文化財課資料登録室主任研究員　森實久美子　31年2月9日（土）
その他（運営・広報・ｻｰﾋﾞｽ等）	国宝の薬師如来坐像をメインビジュアルとした広報物を作成したほか、展示作品の多彩さと重厚さを伝えるテレビＣＭを流し、早くから各方面の注目を集めた。 展覧会会期中には多彩なイベントのほか、テレビ出演や動画公開など、展示室以外でも展覧会の魅力を伝えた。会期中には、以下の講演会・イベントを開催して、展覧会の普及につとめた。 ・総本山醍醐寺　声明コンサート　出演：総本山醍醐寺　31年1月29日（火） ・トークショー「ニッポンの力」　出演：ラグビー選手　五郎丸歩氏、学芸部文化財課資料登録室主任研究員　森實久美子　31年2月16日（土）
補　足	

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定
来館者数	74,748人	70,000人	B

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 当館では初めてとなる真言密教をテーマとした特別展となった本展は、インパクトの強い五大明王像や薬師堂本尊薬師如来坐像などをメインビジュアルとした広報印刷物の効果もあり、高い注目を集め、目標人数を上回る来館者を得られた。展示室の天井高を生かした薬師三尊像の再現展示は迫力のある空間を生み出すことに成功し、来館者の満足度は非常に高かった。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1222Aア

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　2)海外展

【年度計画】
（東京国立博物館）
ア　海外展「江戸絵画の名品」（仮称）(9月3日～10月28日（予定））（会場：プーシキン美術館、文化庁共催）
　本展はロシアにおける初めての大規模な江戸絵画展で、国宝・重要文化財を含む狩野派・琳派・やまと絵・文人画・浮世絵といった幅広いジャンルの名品を精選し、豊饒な江戸絵画の世界を紹介する。

担当部課	学芸研究部	事業責任者	部長　田沢裕賀

【実績・成果】
ア
・展覧会名　＜海外展＞江戸絵画名品展
・会　　期　9月4日～10月28日（55日間）
・会　　場　ロシア連邦・プーシキン美術館
・主　　催　東京国立博物館、文化庁、プーシキン美術館
・作品件数　135件
・来館者数　126,948人
　30年度が「ロシアにおける日本年」であることから、文化庁と東京国立博物館の所蔵品を中心に、千葉市美術館、板橋区立美術館、およびロシア所在の優品を加えて「江戸絵画名品展」を開催した。幕府御用絵師として江戸絵画の基調を確立した狩野探幽をはじめとする狩野派の作品、江戸時代中期の円山応挙、さらに浮世絵や琳派の作品を含む名品を展示した。ロシアにおける初の本格的な江戸時代絵画展。
　日本からは、国宝、重要文化財指定作品を含む116件が出品され、江戸時代初期から幕末までの絵画史の流れを通覧することのできる機会をロシア国民に提供することができた。また、事前調査の成果としてプーシキン美術館所蔵の肉筆浮世絵の優品を確認し、3点を展覧会で初公開することが出来た。

【補足事項】
・来館者に対してアンケートを取り、満足度98.0％と高い評価を得ることができた。
・プーシキン美術館において、講演会1回、ギャラリートーク2回を行った。

プーシキン美術館入口

展示室風景

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
来館者数	126,948人	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	ロシアに日本の伝統文化を紹介する貴重な機会を提供し、多くの来館者を集めることができた。満足度も高く、ロシア国内の日本文化紹介する雑誌“Kimono”で日本美術を紹介する展覧会の部門で最高賞を受賞するなど高い評価を得ることができ、年度計画における目標を達成することができた。

【中期計画記載事項】
　海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	ロシア側からの要請に応じて、29年度より関係諸機関との調整等準備をはじめたことにより、展示環境の安定性が確保され、当館以外の作品を加えることで展覧会のテーマに沿った優品で展覧会を構成することができた。日本文化を紹介する質の高い展覧会として、予想をはるかに超える多くの来館者を集めることができ、来館者の満足度も非常に高いものとなった。その結果、日本の伝統文化に対する理解を高めることができた。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1222Aイ

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　②特別展等　2)海外展

【年度計画】
（東京国立博物館）
イ　海外展　ジャポニズム2018「縄文」（10月16日～12月8日(予定))(会場：パリ市日本文化会館、文化庁共催)
　国宝6件を含む、日本美術の源流と位置づけられる土偶、縄文土器をはじめとした縄文時代の造形美を展示する。

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課考古室長　品川欣也

【実績・成果】
（東京国立博物館）
イ
・展覧会名　＜海外展＞縄文―日本における美の誕生
・会　　期　10月17日～12日8日（38日間）
・会　　場　フランス共和国・パリ日本文化会館
・主　　催　東京国立博物館、文化庁、国際交流基金
・作品件数　64件
・来館者数　14,806人

本展は日仏友好150周年を記念して行われたジャポニスム2018の公式企画の一つであり、平成10(1998)年以来20年ぶりにパリで本格的な縄文文化を紹介した。
展覧会は3章構成。第1章「縄文土器の造形美の移り変わり」、第2章「祈りの美、祈りの形」、第3章「暮らしの道具と装身具に宿る美」とし、日本美術のはじまりとも言われる縄文の造形美がもつ力強さや美しさをたどることで、縄文時代の文化や社会への理解を深められるように構成した。会場ではグラフィックを用いることでヨーロッパやアジアとは異なった縄文文化のユニークさを提示した。出品作品は「火焔型土器」や土偶「縄文のビーナス」をはじめとした縄文時代の国宝6件、重要文化財33件など縄文時代の造形美を代表する計64件。日本美術の原点とも呼べる縄文の造形美を通して日本文化への理解を促した。

【補足事項】
・来館者を対象に行ったアンケートにおいて、満足度99％という高い評価を受けた。
・レセプションでは報道内覧会38社、一般内覧会297人参加。フランス国内では日刊紙14件(Le Mondo紙など)、雑誌43件(Téléramaなど)、テレビ3件(Museum TVなど)、ラジオ2件(France Cultureなど)、ウェブ64件、日本国内では新聞123件(朝日新聞など)、雑誌6件(家庭画報など)、テレビ7件(NHKなど)、ラジオ1件、ウェブ91件)、フランス・日本をのぞく海外（イギリスなど計7件)で報道された。また安部晋三内閣総理大臣、オドレー・アズレーユネスコ事務局長など要人多数が来訪。
・記念講演会計2回(第1回128人、第2回126人)、子ども向けワークショップ計2回、映画上映「縄文にハマる人々」計2回、パフォーマンス「縄文太鼓」1回、ギャラリートーク計4回、パリ市内の小中学生ガイドツアー計16回を行った。パリ日本文化会館で開催した特別展での音声ガイドの製作は初、また当館の海外展ではかつてない規模で教育普及活動を展開した。

展示風景

安部晋三内閣総理大臣視察

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
来館者数	14,806人	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	縄文時代の国宝指定作品すべてが海外展に出品されるのは本展が初めての機会である。また47都道府県のうち21都道府県の出土作品を展示紹介することで、海外では極めて機会の少ない日本の地域文化の魅力を発信する一助となった。黄色いベスト運動やストラスブールでのテロのため来館者数は伸び悩んだが、アンケートの満足度(99%)という結果は、本展が日本文化の発信に果たした役割の大きさを十分に物語っている。

【中期計画記載事項】
海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	来館者の満足度が極めて高かった一方で、来館者数が伸び悩んだ。海外展における現地での広報活動は、今後現地に合わせた戦略・体制の準備があらかじめ必要である。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1231A1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供　1/2

【年度計画】
（4館共通）
ア　平常展及び特別展における、題箋および解説等並びに音声ガイドについて、4言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
（東京国立博物館）
ア　多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。また、本館改修に向けてサイン計画を策定する。
イ　より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。

担当部課	総務部総務課 総務部環境整備課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 列品管理課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　城山美香 特別展室長　丸山士郎 デザイン室長　矢野賀一 国際交流室長　楊鋭 課長　救仁郷秀明

【実績・成果】
（4館共通）
ア　特別展及び平常展において、外国語のパネルを増設し、外国人へのサービス向上を図った。また、特別展での音声ガイド貸し出しを引き続き行った。
イ　館内施設の和式便器を洋式便器(温水洗浄便座付)に更新し、ユニバーサルデザイン化を推進した。
（東京国立博物館）
ア
・券売機のインターフェイス及び総合文化展音声ガイド並びに特別展示室入口の観覧注意サインの多言語化を行った。
・平成館へのアプローチ部分に該当を増設し、照明設備を整備した。
イ
・正門から平成館への動線上に外灯を増設し、夜間開館に適した環境整備を実施した。
・正門プラザ内に設置していたインフォメーションカウンターを来館者がまず目に付く正門正面に移動し、来館者が利用しやすいようお客様サービスの向上を図った。
・本館13室甲冑展示ケースを刷新し最新の高演色LED照明器具を導入した。
○老朽化が進んだ休憩用の屋外椅子とテーブルを更新した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
音声ガイド貸出台数	200,637台	―	―		261,241	223,331	177,522	282,187

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	夜間開館の拡充に合わせて敷地内の照度を上げるとともに、来館者サービスの要ともいえるインフォメーションカウンターを正門プラザ内から正門正面に移動し、サインを大きく出すことで、より来館者がアプローチしやすい形とした。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	国内外の博物館・美術館の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化等の取り組みを調査するとともに、来館者のアンケート調査を活用し、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用に配慮したきめ細やかな取り組みを実行している。特に日本史や日本文化の知識が少ない外国人等の展示理解・補助を目的として、時代背景や用途等を記した解説パネルを各展示室に増設した。（３月予定）

【書式Ａ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1231A2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供　2/2

【年度計画】
（東京国立博物館）
ウ　総合文化展におけるスマートフォンアプリを用いたガイド「トーハクなび」(日本語版・英語版)の公開を引き続き実施する。中国語版、韓国語版については、音声ガイドを充実させ、「トーハクなび」の端末とともに貸出しサービスを継続する。また、4 言語による新システムの開発に着手する。
エ　講座・講演会の会場へのヒアリンググループの設置・管理、スマートフォンアプリを用いた音声認識サービスの運用、ユニバーサルデザインの触知図による対応の継続等、障がい者のための環境整備を充実させる。
オ　「総合案内パンフレット」(7 言語（8 種）：日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西）を制作・配布する。
カ　本館 2 階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、3 言語（英、中、韓）のパンフレットを継続して制作・配布する。
キ　育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供する。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長　竹之内勝典 教育普及室長　藤田千織 室長　鬼頭智美

【実績・成果】
（東京国立博物館）
ウ　アプリ「トーハクなび」を継続して提供した。また、「トーハクなび」のログ解析を継続し、利用者の使用動向の調査・研究を行った。さらに、来館者への貸出サービスとして、日本語・英語は「トーハクなび」の iPod 端末を、中国語・韓国語はアプリのコンテンツの一部を翻訳し、インストールした音声ガイド端末の貸出を行った。音声ガイドについては、一点作品解説提供の範囲を東洋館、法隆寺宝物館へも拡大した。
エ　ユニバーサルデザインの触知図の設置、ギャラリートーク、講演会会場へのヒアリングループの設置や音声認識ソフトによるコミュニケーション支援・会話の見える化アプリ（UD トーク）の導入など、障がい者のための環境整備を実施した。
エ　点字を併記した総合案内パンフレットの印刷と無料配布を継続した。
カ　本館 2 階「日本美術の流れ」の 3 言語（英、中、韓）のパンフレットを継続して制作・配布した。
キ　8月5日にキッズデーを開催し、子育て世代の来館促進と、博物館体験の充実を図った。

【補足事項】
（東京国立博物館）
ウ　各アプリの 30 年度のダウンロード件数および貸出件数は以下の通りである。
・Android 版「トーハクなび」2,847 件（累計 19,403 件、24 年 4 月 18 日公開）
・iOS 版「トーハクなび」6,993 件（累計 44,027 件、25 年 9 月 26 日公開）
・iOSアプリ「法隆寺宝物館30分ナビ」25件（累計28,116件、23年1月20日公開）
※「法隆寺宝物館30分ナビ」は公開を終了してはいないが、iOS9以降に対応していないため、最新の端末で新規にDL、使用することはできない
・貸出件数　34,691件（累計54,161件）（日英中韓の総計）

アプリ端末・音声ガイド貸出サービス窓口正門プラザ

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 公開中のアプリ「トーハクなび」は9,840件のダウンロード実績をあげた。貸出サービスにおいては、アプリ端末および音声ガイド端末合わせて年間34,691件貸出した。音声ガイドの作品解説提供範囲も拡大している。ほかに障がい者のための環境整備、7言語の「総合案内パンフレット」の制作・配布、3言語の「日本美術の流れ」のパンフレット制作・配布、託児サービスの提供等、年度計画は順調に達成されている。一方で、貸出サービスでのメディアや内容が日英と中韓で異なる点など、来館者サービスの面で不十分な点が残されている。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 パンフレットの制作・配布、ガイドアプリの公開・貸出による多言語化、聴覚障がい者向けの設備の充実、託児サービスやキッズデーによる子ども連れの来館者への配慮など、一定の成果はあげている。引き続き幅広い来館者の利用に配慮した快適な観覧環境の提供のための施策を推進したい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1231B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
（４館共通）
ア　平常展及び特別展における、題箋および解説等並びに音声ガイドについて、4言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
（京都国立博物館）
ア　館内案内リーフレット（7 言語(8 種)：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して配布する。
イ　デジタルサイネージやSNSを活用し、効果的な情報発信を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　數馬厚人 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（４館共通）
ア　平常展及び特別展において、題箋及び解説等並びに音声ガイドを用いて情報提供を行った。継続して4言語（日・英・中・韓）に対応した。
（京都国立博物館）
ア　30年3月に納品された中国語(繁体字)、ドイツ語が追加された館内案内リーフレットを積極的に配布した。
イ　SNSを活用して、災害時の臨時閉館情報等を効果的に発信した。

【補足事項】
（京都国立博物館）
ア
・京のかたな展では英語・中国語・韓国語でイラストを多用した鑑賞ガイドを作成した。
　外国人に敬遠されがちな刀剣鑑賞の一助とし、日本文化の普及に貢献した。
イ
・特別展開催時にTwitterを使用して混雑状況を発信した。
・災害を原因とする臨時閉館の際は、4言語（日・英・中・韓）で情報を発信した。
・デジタルサイネージを用い、関心のある展示室にいつでも赴けるよう案内した。
・名品展（常設展）閉室案内サインについて多言語化を行った。
音声ガイド利用台数　計104,463台
・特別展覧会「池大雅」(4言語：日、英、中、韓)　　6,498台
・特別展覧会「京のかたな」(4言語：日、英、中、韓) 84,889台
・名品ギャラリー(4言語：日、英、中、韓)　13,076台

京のかたな展音声ガイド

京のかたな展鑑賞ガイド

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
音声ガイド貸出台数	104,463台	－	－		76,671	109,167	36,584	128,728

【年度計画に対する総合評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 30年度は題箋及び解説等の4言語対応に関して、視認性を高め、内容を充実させることができた。特別展の音声ガイドについては人気声優を起用した特別版を制作し利用者の増加と満足度の向上を図った。名品ギャラリー（常設展）閉室案内サインについて多言語化を行うことで、ユニバーサルデザイン化を推進した。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 中期計画3年目に当たる30年度は、各種表示の多言語化を重点的に行い、外国人来館者に対する観覧環境を大きく向上させた。これを基礎とし、31年度は幅広い層に満足してもらえる環境の整備に努めたい。名品ギャラリー（常設展）閉室案内サインについて多言語化を行うことで、外国人の利用配慮した観覧環境の提供を行った。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1231C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
（４館共通）
ア　平常展及び特別展における、題箋および解説等並びに音声ガイドについて、4言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
（奈良国立博物館）
ア　快適な観覧環境を提供するための計画的な整備を行う。
イ　誘導サイン等の一層の整備を図り、より快適な観覧環境を確保する。
ウ　正倉院展の際に託児室を設置するとともに、混雑状況・待ち時間の速報を行う。
エ　館内案内リーフレット（7 言語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作する。
オ　多言語による案内について充実を図る。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　臣守常勝

【実績・成果】
（４館共通）
ア　名品展（平常展）「珠玉の仏たち」（なら仏像館）においては、解説パネル、題箋のうち主要作品3割を解説文まで4言語（日・英・中・韓）化した。特別展でも主要作品約20点については、解説文まで4言語とした。名品展（平常展）「珠玉の仏たち」、特別展では、4言語の音声ガイドを提供した。題箋の作品名、技法、時代等の情報については、名品展、特別展ともに全て4言語を提供した。
イ　館外の誘導サイン等の見直しを行い、より快適な環境を提供するように努めた。
（奈良国立博物館）
ア　展示室の適正な温湿度管理のため、なら仏像館のボイラー設備の一部更新を行った。
イ　誘導サインの多言語化整備を行い、観覧環境の改善並びに外国人観覧者への対応の充実を図った。
ウ　正倉院展の会期中に無料託児室を開設し、保育士2人が常駐して1歳児から未就学児までの預かりを実施した。また、案内看板、ウェブサイト、ハローダイヤルを通じて適宜周知を図った。
エ　館内案内リーフレット（7言語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作し、中国語版にいたっては、簡体字版に加え、繁体字版も制作した。
オ　総合案内に外国語（英語、中国語）対応可能なスタッフを常時配置し、外国人来館者への応対の充実を図った。

【補足事項】
（４館共通）
ア　特別展「国宝 春日大社のすべて」「糸のみほとけ－国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏－」「第70回正倉院展」、名品展（平常展）「珠玉の仏たち」において、パネル、題箋（解説文は「正倉院展」以外は一部分のみ）、音声ガイドを全て4言語（日・英・中・韓）で提供した。
（奈良国立博物館）
ウ　正倉院展の会期中の無料託児室は関西圏をはじめ全国から託児数93人の利用があった。また、託児室内に授乳やオムツ替え用のスペースも設置し、32人の利用があった。
オ　中国人来館者が増える時期（8月・夏休み、2月・春節）に外国語スタッフ（中国語）を増員配置して対応した。

託児室（西新館）

総合案内

誘導サインの多言語化

【定量的評価】項目	年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
音声ガイド貸出台数	63,299台	－	－		55,466	49,546	42,210	63,751

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	無料の託児室設置については利用者から好評の意見が寄せられている。混雑が予想される展覧会においては、誘導サインの増設や待ち時間の速報を行うことで来館者への情報提供を図り、快適な観覧環境の維持に努めた。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	託児室を設けることで、幼児連れの来館者にも安心して正倉院展を観覧していただけた。保育士の確保が難しくなっている現状もあるが、引き続き託児サービスを提供できるように努力する。今後もより多くの方々に博物館を楽しんでいただけるように、快適な観覧環境の提供に努める。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1231D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　1)快適な観覧環境の提供

【年度計画】
（４館共通）
ア　平常展及び特別展における、題箋および解説等並びに音声ガイドについて、4 言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。
イ　館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
（九州国立博物館）
ア　快適な観覧環境を保持するため、サインや照明等の空間デザインを工夫し、満足度の高い展示の実現を目指す。
イ　展示室の年間カレンダーを見やすいものに更新し、分かり易い情報発信に努める。
ウ　館内案内リーフレット（7 言語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作する。
エ　新しい音声ガイドシステムならびに解説システムを導入する。

担当部課	学芸部企画課 展示課 総務課	事業責任者	課長　白井克也 課長　楠井隆志 課長　國谷勝伸

【実績・成果】
（４館共通）
ア　平常展において、開館以来、要望が強かった日本語版音声ガイドの提供を 5 月 22 日より開始した。来館者の選択肢が増え、好評を得た。特別展においては、継続して、4 言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行った。
イ　総合案内所での車イス及びベビーカーの貸出を実施し、案内等の多言語化表記等、館内施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進した。
（九州国立博物館）
ア　平常展のテーマ解説パネルについて文面・デザインを再検討し、来館者の動線に配慮し、かつ視認性に優れたものに更新した。
イ　平常展特集展示の案内を展示室外の館内各所に設置し、認知度の向上と観覧者の増加に努めた。季刊情報誌「アジアージュ」においては、平常展を継続して取り上げ、広報に努めた。
ウ　館内案内リーフレットを継続して 7 言語（日・英・中・韓・仏・独・西）で制作し、配布した。
エ　新解説システム検討の参考とするため、Wi-Fi を利用する動画・音声ファイルの提供システムについて業者からヒアリングを行った。展示室内で使用するグループガイド機器の更新を行った。
○30 年度よりスーパーハイビジョンシアターにおいて多言語視聴システム（英・中・韓）の運用を開始した。さらに、利用者の動向を考慮し、改良を行った。

【補足事項】
（4館共通）
ア
平常展音声ガイド貸出数
日本語：2,268台、英語：2,502台、中国語：4,299台、韓国語：4,661台

特別展音声ガイド貸出数
・王羲之と日本の書：2,365台
・至上の印象派展　ビュールレ・コレクション：28,580台
・オークラコレクション：7,303台
・京都・醍醐寺―真言密教の宇宙―：13,189台

○スーパーハイビジョンシアター多言語視聴機器貸出数
英語：1,972台、中国語：3,291台、韓国語：1,494台

展示室内での音声ガイド使用の様子

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
音声ガイド貸出台数	65,167台	－	－		67,665	70,955	98,845	52,425

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	平常展の日本語版音声ガイドの運用を開始し、スーパーハイビジョンシアターの多言語化を実施したことで、国内外の来館者に新たなサービスを提供できた。 平常展のパネル類の更新によって、より読みやすくわかりやすい解説を実現した。

【中期計画記載事項】
博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	中期計画の達成に向けて順調に推移している。音声ガイドの導入により、国外のみならず国内からの来館者に対するサービスについても向上させることができた。31年度以降も引き続き、来館者サービスの向上と快適な観覧環境の提供に努めていく。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1232A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
（４館共通）
ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。
イ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
ウ　年間を通じて、来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた夜間開館の拡充を実施する。
エ　夜間開館の拡充に合わせて、来館者の夜間開館に対するニーズを把握するために、夜間開館時にアンケート調査を実施する。
（東京国立博物館）
ア　特別展等に合わせて軽食販売を行う等、サービスの向上に努める。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
（４館共通）
ア　年間を通じて総合文化展アンケートは4言語（日・英・中・韓）及び特別展のアンケートは2言語（日・英）で実施し、外国人からの意見聴取に努めた。
イ　ミュージアムショップやレストランにおいては、アンケート等による利用者の意見把握に努め、運営業者との定例会を通じ問題点を共有し、サービス向上に努めた。
ウ　年間を通じ、金・土曜21時までの夜間開館を実施した。SNSでの発信、また上野駅地下鉄動線にて夜間開館実施のポスターを掲出するなど、周知を図った。
エ　夜間開館時にアンケート調査を実施し、夜間における来館者の意見や要望を把握した。アンケート内容を夜間におけるサービスの充実に繋げた。
（東京国立博物館）
ア　特別展毎に、平成館ラウンジにおいて軽食販売を行った。また、通年で敷地内にてキッチンカーおよび軽食販売を実施した。さらに、春と秋の庭園開放時にも軽食販売を実施し、サービス向上に努めた。
ア　特別展「顔真卿」では、中国からの来館者が多かったため、日・英のアンケートに加えて、中国語によるアンケートを実施した。

【補足事項】
公式キャラクター「トーハクくん・ユリノキちゃん」を使用したノベルティグッズとして、野外シネマやビアナイトに適したレジャーシートを制作した。また、若年層向けに、本館の外観を配した文房具（キーホルダー、マグネット、リングノート、クリアファイル、ボールペン、エコバック、トートバッグ）や公式キャラクターを使った卓上カレンダー、手に取りやすい食品のお土産として和三盆干菓子（見返り美人図、風神・雷神図屏風パッケージ）を開発した。

新商品の和三盆干菓子

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	71.3%	80%超	C		－	－	70.4	68.1
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	72.7%	－	－		－	－	69.7	74.8

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	夜間開館時の利用率の向上を図るため、来館者ニーズの適切な把握に努める。来館者の意見を把握し、来館者のニーズに沿った開館時間となるよう調査分析を進める。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランとサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が 80%を超えることを目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	複数の来館者アンケート調査の結果、専門家の批評やSNS等による意見を基に、定例会や日常的な事業の中でミュージアムショップやレストランと情報を共有し、恒常的なサービス向上に取り組んでいる。多言語化表記に関するアンケートについては、外国人向けのわかりやすい展示コーナー解説の新設や展示室解説の刷新に併せて、重要課題として実施を計画する。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1232B

中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（2）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
（４館共通）
ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。
イ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
ウ　年間を通じて、来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた夜間開館の拡充を実施する。
エ　夜間開館の拡充に合わせて、来館者の夜間開館に対するニーズを把握するために、夜間開館時にアンケート調査を実施する。
（京都国立博物館・奈良国立博物館）
ア　特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　數馬厚人 企画室長　山川曉

【実績・成果】
（４館共通）
ア　日本語・英語に加えて、中国語・韓国語による来館者アンケートを実施し、幅広い意見の把握に努めた。
イ　オリジナルグッズを開発し、展覧会に応じた関連商品等を取り揃えた。また、レストランでは館限定のオリジナルメニューを提供した。
ウ　平常展及び特別展開催中の金曜日、土曜日に午後8時まで夜間開館を実施した。なお、7～9月は午後9時まで開館を延長した。
エ　夜間開館時に来館者アンケートを実施した。
（京都国立博物館）
ア　アンケートの意見等を受け、ショップ及びレストランに接客対応改善の連絡や新規企画の提案を行った。また、『博物館だより200号』に多摩美術大学教授　木下京子氏による特別展「池大雅」の展覧会評を掲載した。

【補足事項】
（４館共通）
イ
・当館公式キャラクター「トラりん」使用規則を制定し、広く利用に供した。
　新たに特別展コラボグッズや書籍、菓子等に使用され、キャラクターを活用した情報発信に繋がった。
・レストランと協力し、「トラりん」をモチーフとした飲料の提供等を行った。
エ　屋外の看板や沿線の鉄道に掲出する電照看板に夜間の風景を使用し、夜間開館の浸透を図った。

京阪電車京橋駅（大阪市）に掲出

（京都国立博物館）
ア　京のかたな展期間中、庭園で飲料提供の要望に応えるため、レストランと協議し、喫茶ブースを設置した。

京のかたな展コラボグッズ

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	73.1%	80%超	C		－	－	40.2	63.4
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	82.9%	－	－		－	－	69.3	73.5

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	観覧環境に関するアンケート満足度は目標値をやや下回ったが、28年度、29年度と次第に向上している。文化財保護のための空調・照明管理に関する情報が次第に来館者に浸透してきたことによると考えられる。 多言語表記に関する外国人アンケートの満足度は、実施内容に比例するように大幅に上昇した。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画3年目として、多言語表記を充実させる等の観覧環境の改善を進めることができた。満足度は徐々に向上しており、目標を達成できるように取り組んでいく。また、30年度は既存業者契約満了により、レストラン及びショップの運営業者が更新されることから、引き続き連携を密にしてサービスの改善に努めたい。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1232C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
（４館共通）
ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。
イ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
ウ　年間を通じて、来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた夜間開館の拡充を実施する。
エ　夜間開館の拡充に合わせて、来館者の夜間開館に対するニーズを把握するために、夜間開館時にアンケート調査を実施する。
（京都国立博物館・奈良国立博物館）
ア　特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。
（奈良国立博物館）
ア　アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努める。
イ　ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図る。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　臣守常勝

【実績・成果】
（４館共通）
ア　年間通じて記述式のアンケートを実施するとともに、対面によるアンケートを複数回実施した。外国人を含む来館者から寄せられた展示・観覧環境・多言語表記等に関する意見は館内で共有し精査のうえ改善に努めた。
イ　アンケート等で寄せられるミュージアムショップやレストランの利用者等の意見をふまえ、関係者と協議のうえ、新たなオリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努めた。
ウ　金曜日、土曜日をはじめ、周辺地域のイベント等を考慮して、夜間開館を実施した。
エ　夜間開館に対する意見を収集するため、夜間の開館時もアンケート調査を実施した。
（京都国立博物館・奈良国立博物館）
ア　白鶴美術館顧問 山中理氏に「『糸のみほとけ展』の展示評」を寄稿いただいた。展示について高評価をいただき、『奈良国立博物館だより』107 号（30 年 10 月発行）に掲載した。
（奈良国立博物館）
ア　アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努め、また、敷地内の移動販売車数を１台増やし、観覧者へのサービス及び館内への誘引を図った。
イ　ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図った。

【補足事項】
（奈良国立博物館）
ア　特別展にちなんだメニューやお正月には干支にちなんだメニュー（しし汁）を展開した。
イ　当館の建物をデザインした手ぬぐい等のオリジナルグッズや、30年度の正倉院展で展示される宝物等をモチーフにしたグッズ等をミュージアムショップで販売した。

特別展「糸のみほとけ」
蓮麺とはす茶のセット料理

当館及び正倉院展
オリジナルグッズ

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	75.8%	80%超	C		－	－	68.0	70.5
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	79.8%	－	－		－	－	67.7	69.7

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	観覧環境は、29年度に引き続き満足度が上昇する結果となったが、依然として目標値を下回っている。実際の回答内容では、低評価ではなく、普通という評価が多い。また、ミュージアムショップやレストランを利用していないというコメントも多いため、館内外でわかりやすい案内誘導を心がけて利用者の増加にも努めたい。多言語表記についても満足度が向上したため、引き続き多言語表記の充実に向けて努力する。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	来館者対象のアンケートは通年の設置式に加え、特別展及び特別陳列期間中に複数回、対面回収によるアンケートを実施した。これにより、回収率が上がり、広く来館者の意見を集めることが出来た。アンケートの集計結果は、館内で共有し適宜対応をとるとともに、ミュージアムショップやレストランに関係する内容についても回覧し館全体で共有、改善に取り組んだ。観覧環境に関する満足度は依然として目標に達していないため、31年度以降も引き続き課題として改善に努める。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1232D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（２）展覧事業　③観覧環境の向上等　2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

【年度計画】
（４館共通）
ア　展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。
イ　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
ウ　年間を通じて、来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた夜間開館の拡充を実施する。
エ　夜間開館の拡充に合わせて、来館者の夜間開館に対するニーズを把握するために、夜間開館時にアンケート調査を実施する。
（九州国立博物館）
ア　レストラン利用者にアンケート調査を行い、サービス向上に努める。
イ　アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信、オリジナルグッズの提供に努める。

担当部課	学芸部企画課 展示課 広報課 総務課	事業責任者	課長　白井克也 課長　楠井隆志 課長　田中正一 課長　國谷勝伸

【実績・成果】
（４館共通）
ア　展覧事業、観覧環境等に関する来館者アンケート調査を、中国語と韓国語を新たに作成して4言語（日・英・中・韓）で実施し、観覧環境やサービスの改善に努めた。
イ　ミュージアムショップにおいて、オリジナルグッズの開発を行ったほか、特別展、特集展示に合わせた期間限定商品の導入に努めた。
ウ　平常展・特別展ともに、金曜日、土曜日は午後8時まで夜間開館を実施した。その他、太宰府天満宮のイベントにあわせ、臨時の夜間開館を実施した。
エ　文化交流展示室内で実施する夜間開館イベント、「夜の博物館たんけん隊」や「夜のミュージアムトーク」、「スケッチしナイト」等、特に土曜日の夜間に家族で楽しめる多彩なイベントを企画・実施し、高い満足度を得た。

（九州国立博物館）
ア　レストラン利用者からのメニューに対する要望などを把握し、サービス向上に努めた。
イ　アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」では、館内ショップでは取り扱わないオリジナル商品を販売するほか、特別展にあわせてバナーを店頭に掲出し、告知に努めた。

スケッチしナイト実施の様子

【補足事項】
（九州国立博物館）
ア　レストランの評価については、「ふつう」を含めた肯定的な評価は全体の97.5%にのぼっている。

【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年変化	26	27	28	29
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	61.6%	80%超	D		－	－	77.2	63.7
多言語表記に関する外国人アンケート満足度	78.1%	－	－		－	－	78.8	84.6

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 夜間開館の実施日に、ミュージアムショップ及びカフェを夜間開館時間に合わせて営業することで、サービスの拡充に努めた。アンテナショップが情報発信基地として機能し、年度計画のとおり、サービスの向上に寄与することができた。

【中期計画記載事項】
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画のとおり、事業、管理運営についての見直しを行った。観覧環境に関する来館者アンケート満足度については、館内スタッフの対応についての上位合計は72.2%であり、また、レストラン、ショップについては「ふつう」との回答が4～5割で肯定的な評価は95%以上となっており、一定の評価は得られている。さらに上位の評価を得るために、オリジナルグッズの開発についても、引き続きミュージアムショップと協議を進めたい。31年度以降は目標値を超える来館者満足度となるよう努めていきたい。